

令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」

研究開発実施状況報告書



住所	山形県西置賜郡小国町大字小国小坂町2-70
管理機関名	白い森人創生プロジェクト
代表者名	山形県小国町長 仁科洋一

目 次

1	事業の実施期間	2
2	指定校名・類型	2
3	研究開発名	2
4	研究開発の概要	2
5	教育課程の特例の活用の有無	2
6	管理機関の取組・支援実績	2
7	研究開発の実績	8
8	目標の進捗状況、成果、評価	16
9	次年度以降の課題及び改善点	17
10	地域協働 主な活動報告	18
10-1	先進校視察（島根県 津和野高等学校、隠岐島前高等学校）	18
10-2	アントレプレナーシップ講座	23
10-3	先進校視察（石巻西高等学校）	24
10-4	先進校視察（青森県立八戸東高等学校、青森県立八戸商業高等学校、岩手県立大槌高等学校）	25
10-5	山形県探究型学習課題発表会	29
10-6	埼玉県立総合教育センター主催学校を核とした地域創生セミナー開催	30
10-7	先進校視察（岡山県立和気閑谷高校）	31
10-8	2030 SDGs ゲームを活用した環境教育	36
10-9	全国高校生マイプロジェクトアワード 2019 参観	37
10-10	第 6 回 SCH シンポジウム	38
10-11	「白い森未来探究学」1 年地域文化学	39
11	生徒の成果品	46
12	「高校魅力化評価システム_v2.0」診断結果チェックシート	55

1 事業の実施期間

令和元年6月25日（契約締結日）～令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 山形県立小国高等学校

学校長名 地主 好

類型 地域魅力化型

3 研究開発名

白い森人 創生プロジェクト

4 研究開発の概要

白い森学習の一環として、地域の諸課題を研究テーマとして設定し、大学の研究者等や地域関係者からの協力・指導を得ながら研究を行う探究型の学習活動である「地域文化学」を総合的な学習（探究）の時間の中で実施している。現在1年次を対象として行われている地域文化学の名称を「白い森未来探究学」とし、これを3年間かけて2、3年次まで拡充するとともに、地元産業界等と提携してより地域に密着した実践的な研究活動に発展させる。また、教育課程外の取組においても、実践的な白い森未来探究学で得られた知見や経験を生徒の出発点とし、地元産業界等の協力の下、農林業に係る営利活動体験、企業発信型の長期間にわたるインターンシップへの参加など、地域に密着した実践的なキャリア教育を行う。さらに、これらの過程において、大学との連携、ICTを活用した遠隔教育の導入、アントレプレナーシップ教育等により積極的に外部人材等を活用することで、生徒に地域内だけにとどまらない幅広い分野で新しい価値を提供するようなカリキュラムを研究開発する。

5 教育課程の特例の活用の有無

特になし

6 管理機関の取組・支援実績

(1) コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体

小国町、小国町教育委員会、山形県立小国高等学校、山形県教育委員会、山形県立小国高等学校同窓会、山形県立小国高等学校後援会、山形県立小国高等学校PTA、小国町認定農業者協議会、小国町森林組合、クアーズテック株式会社小国事業所、日本重化学工業株式会社小国事業所、小国町商工会、学識経験者

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年5月28日（第1回）	第1回会合 第1回山形県立小国高等学校学校運営協議会において「地域との協働による高校改革推進事業」の内容及び学校運営協議会をコンソーシアム化し、事業展開を図ることを承認。

令和元年8月27日（第2回）	第2回会合 ・キャリア教育及び白い森未来探求学の進捗状況並びに島根県立津和野高校、隠岐島前高校への先進地視察報告 ・地域との協働による高校改革推進事業における将来の地域ビジョン及び求める人材像について議論。事務局案について、再度、検討することを了承。
令和元年10月21日（第3回）	第3回会合 ・白い森未来探求学の進捗状況及び全国高等学校小規模校サミットの結果について報告 ・地域との協働による高校改革推進事業における展開手法と令和元年度の位置づけを説明し了承を得る。 ・学校教育目標と育む人材像について提案、決定。
令和2年2月25日（第4回）	第4回会合 ・今年度の活動のまとめと課題の整理 ・次年度の取り組み方策の決定

（2）カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科学科長 岡崎エミ氏（都度依頼し、謝礼支払い）

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年9月17日	第1回指導 ・令和元年度事業の進め方について指導 ・全国サミットへの対応について協議
令和元年10月7日	第2回指導 ・将来の地域ビジョン及び求める人材像等の設定の在り方について ・キャリア教育の進め方（企業ヒアリングの実施等）について ・地域文化学講座の実施状況及び今後の予定について ・第3回学校運営協議会の内容について ・全国サミットへの対応について等
令和元年10月21日 から22日	第3回指導 ・第3回学校運営協議会への出席 学校経営の中間総括について 学校教育目標と育む人材像の共有について 地域との協働による高校改革推進事業の展開と令和元年度の位置づけについて ・第3回学校運営協議会を受けての事後指導について等

令和2年1月29日	第4回指導 ・令和元年度事業について指導 ・第4回学校運営協議会の内容について ・次年度の取り組み方法について
令和2年2月21日	第5回指導 ・令和元年度事業の総括について指導 ・第4回学校運営協議会の持ち方について ・次年度の取り組み方法について
令和2年3月26日	第6回指導 ・令和元年度事業の総括について指導 ・次年度カリキュラム、白い森未来探求学の編成について等

(3) 地域協働学習実施支援員について

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

小国町統括的な地域学校協働活動推進員（兼）CSディレクター 渋谷洋司氏
（小国町が委嘱し、当該業務を担当）

②実施日程・実施内容

活動日程	活動内容
令和元年9月17日	第1回カリキュラム開発等専門家協議への参加 ・令和元年度事業の進め方について ・全国サミットへの対応について協議
令和元年10月7日	第2回カリキュラム開発等専門家協議への参加 ・将来の地域ビジョン及び求める人材像等の設定の在り方について ・キャリア教育の進め方（企業ヒアリングの実施等）について ・地域文化学講座の実施状況及び今後の予定について ・第3回学校運営協議会の内容について ・全国サミットへの対応について等
令和元年10月21日 から22日	第3回学校運営協議会への出席 ・学校経営の中間総括について ・学校教育目標と育む人材像の共有について ・地域との協働による高校改革推進事業の展開と令和元年度の位置づけについて等
令和2年1月16日	小国高校との調整会議 ・今年度の白い森未来探求学、キャリア教育等の振り返り及び次年度の方向性について協議
令和2年1月29日	第4回カリキュラム開発等専門家協議 ・令和元年度事業の総括について ・第4回学校運営協議会の持ち方について ・次年度の取り組み方法について

令和2年3月26日	第6回カリキュラム開発等専門家協議 ・令和元年度事業の総括について ・次年度カリキュラム、白い森未来探求学の編成について等
-----------	---

(4) 運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科学科長 岡崎 エミ氏
島根県立津和野高校魅力化コーディネーター 牛木 力氏
三菱UFJリサーチ&コンサルティング 阿部 剛志氏

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年10月24日（第1回）	第1回運営指導委員会 ・令和元年度地域との協働による高校教育改革推進事業の進捗状況及び今後の事業計画について説明し、指導を得る。事業の方向性について確認を得る。
令和2年2月25日（第2回）	第2回運営指導委員会 ・学校側から、令和元年度の三年生進路状況及び保護者アンケート結果等学校評価について説明。 ・令和元年度地域との協働による高校教育改革推進事業の総括と令和2年度の取り組み方針等について説明し、指導を得る。

(5) 管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

活動日程	活動内容
令和元年7月10日	高校生議会、議員との意見交換会への参加 ・小国高校3年生25名出席。うち、一般質問3名。
令和元年7月25日	第1回実務者レベル会議の開催 ・実務者レベル会議の持ち方、第2回学校運営協議会の内容、事業の進め方等について協議 ・今後の事業実施内容及び経費支出予定の把握
令和元年7月30日から 31日	第2回全国高等学校小規模校サミットの開催 ・小国高校ほか17校参加 参加高校生数134名（うち小国高校生72名） 引率者数 25名、一般参加者 12名
令和元年8月21日	第2回実務者レベル会議の開催 ・第2回全国小規模校サミット、将来の地域ビジョン及び求める人材像等の回答状況について報告 ・今後の事業実施内容及び経費支出予定の把握 ・研修会の実施についての協議

令和元年9月12日	置賜地区青少年育成連絡協議会及び小国町青少年育成推進委員会が主催する「生徒と地域の大人の対話会」へ参加。 ・小国高校生1, 2年生46名、小国中学校3年生18名、地域の大人30名参加。
令和元年9月24日	第3回実務者レベル会議の開催 ・第2回学校運営協議会の結果及び前回以降の事業実施状況報告 ・全国サミット、先進地視察、研修会開催、教員加配等について協議
令和元年10月23日から 25日	地域との協働による高校教育改革推進事業全国サミットへ牛木運営指導委員、小国高校長岡教務主任、小国町教育委員会仁科課長、小国町役場総合政策課高橋主査の4名が参加
令和元年10月28日	先進地視察（地域協働報告10-2 参照） ・宮城県石巻西高等学校が主催する「まなびフォーラム」に小国高校小松養護教諭、鈴木講師が参加
令和元年10月30日から 11月1日	先進地視察（地域協働報告10-3 参照） ・青森県立八戸商業高校、青森県立八戸東高校及び岩手県立大槌高校へ小国高校鈴木教頭が視察実施
令和元年11月8日	第4回実務者レベル会議の開催 ・全国サミットの概要報告 ・研修会の開催について ・令和2年度事業計画及び予算案の検討
令和元年11月19日	地域との協働による高校改革推進事業研修会 ・小国高校の取り組み等について報告 ・大正大学地域構想研究所浦崎太郎教授による講演 演題「未来の高校を小国から」
令和元年12月7日	小国町白い森保小中高一貫教育推進協議会主催、「白い森教育フォーラム2019」へ小国高校生22名が参加。今年度の地域文化学、全国小規模校サミット、アメリカ修学旅行等の内容について発表。
令和2年1月20日	埼玉県立総合教育センター主催「地域創生セミナー」（地域協働報告10-6 参照）小国高校阿部養護教諭、板垣教諭、小国町役場総合政策課高橋主査が事例発表者として参加。
令和2年1月25日	小国町主催「白い森小国ビジネス創出塾」へ小国高校生2名が参加。それぞれ起業アイデア賞、オーディエンス賞を受賞。
令和2年1月31日から 2月1日	先進地視察（地域協働報告10-7 参照） ・岡山県立和気閑谷高等学校主催「探求型学習発表会」へ小国高校佐藤、早坂教諭が参加

令和2年2月22日	東北学院大学で開催された「全国高校生MY PROJECT AWARD 2019」東北地域大会（地域協働報告10-9 参照）に小国高校生2名、教諭3名が参加。
令和2年2月23日から24日	東北芸術工科大学主催「第6回SCH（スーパー・コミュニティ・ハイスクール）シンポジウム」（地域協働報告10-10 参照）に小国高校生7名、教諭2名がパネラーとして参加。
令和2年2月28日から 3月1日（中止）	先進地視察 ・島根県立津和野高等学校へ小国高校教諭が視察予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止。
令和2年2月29日	山形テレビ「提言の広場」に小国高校生3名が出演し、小規模校サミットを中心とした今年度の様々な活動で得た成果や地域との協働活動における思いや意義について発表した。
令和2年3月13日（中止）	若手企業人との意見交換会が、新型コロナウイルス感染拡大により中止。

②事業終了後の自走を見据えた取組について

今年度の事業展開において、地域との協働による高校教育改革推進事業全国サミットへの参加や他の先進事例の状況把握から、高校と地域をつなぎ、より个性的かつ独自のカリキュラム開発とその展開を図る上で、高校の魅力化を進めるコーディネーターの確保と配置が重要であることを強く認識した。そのため、コーディネーター確保に向け、小国町令和2年度予算において、当該事業を専門的に担当する高校魅力化コーディネーターの確保に要する経費を盛り込むこととしている。併せて、コーディネーター確保の一手法として地域おこし協力隊制度の活用を念頭に進めていく。

また、本町における少子化傾向は今後も継続することが見込まれることから、小国高校における独自のカリキュラム開発等と平行して、全国から入学者を募集していくことについても併せて検討していく。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「理科」における地域での探究学習			2回									
科目「国語・家庭（合同授業）」における探究学習				1回								
科目「家庭」における地域・校内での探究学習						2回	1回					
科目「体育」における地域・校内での探究学習						1回	1回					
科目「保健」における探究学習										1回		
科目「美術」における探究学習								1回	1回			
科目「英語」における地域での探究学習							1回					
総合的な探究の時間における探究学習		1回	2回	6回	1回	3回	4回	3回	3回			
「LHR」における探究学習	1回											
課外活動における地域との協働活動	2回	1回	3回	1回	2回	2回	1回	4回	3回			

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

これまで1年次完結であった地域課題解決型探究学習を「白い森未来探究学」という総称で3年間取り組む学習に改編する。1年次は「地域文化学」という名称で、興味・関心・意欲を高めることを目的に、地域内外の指導者による講義やフィールドワークをふんだんに盛り込み、研究の方向性を見出す学習活動とし、2年次は「地域実践学」とし、個々が設定した課題に基づき、具体的な調査、研究活動を行う。3年次は「地域構想学」として2年次にまとめた成果から新たな提案を行い、3年間の総まとめとする。以上のような計画の下、初年度である今年度は1年次の「地域文化学」において別紙資料のように講義、授業を実施した。1月から開始した「Let's talk」では研究を開始する際の疑問等について教職員が一人一人の生徒に個別に対応する作業を行っている。

令和元年度 各教科および課外等における地域と協働した活動実績

山形県立小国高等学校

○カリキュラム内（１年「総合的な探究の時間－白い森未来探究学－」）での活動

月日	曜日	時間	授業内容・講義テーマ	指導者	備考
5/9	木	2 h	オリエンテーション	長岡、1学年団、2・3年生徒	ワークショップ、先輩の発表
6/3	月	4 h	東北芸術工科大学研修「フィードバック研修」	東北芸術工科大学 准教授 岡崎エミ先生（＋大学2・3年生8名）	町バス協力
6/21	金	2 h	講座①A「ヤマウコギって何？」（理科） 講座①B「木の魅力～森林の活用～」（林業）	山形県立産業技術短期大学校 校長 尾形健明先生 農林大学校 准教授 齋藤朱美先生 置賜総合支庁森林整備課、小国町森林組合	町バス協力
7/2	火	2 h	講座②「地域資源の発見と観光ロードづくり」	株式会社たびむすび、東北活性	東北おくわくスクール2019利用
7/16	火	2 h	講座③「横のつながりを大事にした地域と密着した歩み」	株式会社ササノエ企画印刷	放課後にはアプリ制作講座
7/17	水	1 h	1学期ふり返り	教務主任、1学年団	
7/24	水	1 h		教務主任、1学年団	夏期講習の1コマとして実施
(8/4)	日	(3 h)	白い森おぐに湖体験 -森と湖に親しむ旬間(横川ダム)-	各主催団体（教務主任、1学年団）	夏課題の場として推奨 (参加者12名参加) あやめレンタカー依頼
		2 h	講座④A：農業「小国で農、自然、人との出会いを大切に～大自然の恵みでたくさんさんの笑顔を～」	小国地産株式会社（ハートランドファーム）	ハートランドファーム農場にて 農作業（枝豆）実習＋講話
9/10	火	13:25 ～ 15:15	講座④B：歴史×イベント「敷石道から生まれた新しいおまつり～時代を超えてそこにあるものをつないでいく～」 講座④C：福祉「幸せな未来の作り方～愛と笑顔のあるところへに幸せはある～（傾聴とは）」ライブな講座♪ 講座⑤A：経済「お金って何？～お金を稼ぐということ～は“人に感謝される”ことを見つけて実践する”こと～」 講座⑤B：和菓子製造「1軒のいい菓子屋さんがいるだけで、町全体が元気になる」	黒沢峠保存会	講話（本校）＋黒沢峠散策
9/17	火	2 h	おぐに町探検オリエンテーション（グループビギン、コース設定）	医療法人社団 緑愛会 居宅介護支援事業所 満天の家 介護支援専門員 株式会社山のむこう（学習塾STEM）	講話＋ワークショップ（本校） 講話＋ワークショップ（本校）
10/3	火	2 h	おぐに町探検準備（アポイントメント、コースの確定、事前学習）	株式会社 香月	講話＋和菓子作り体験（本校）
10/8	火	2 h	おぐに町探検（6グループに分かれて）	小国町役場 総合政策課 教務主任、1学年団	6グループ編成
10/29	火	6 h	おぐに町探検（6グループに分かれて）	教務主任、1学年団	
30	水	1 h	簡易発表・まとめ	教務主任、1学年団	探検は1～5 h、6 hは振り返り
11/11	月	6 h	いいで町めぐり（3コースに分かれて）	教務主任、1学年団	めぐりは1～5 h、6 hは振り返り
11/14	木	2 h	講座⑥：小国町or小国高校のPR動画を作成しよう	学校法人 佐藤栄学園 さとえ学園小国小学校 ICT・AI教育担当 評価者：小国町役場総合政策課、地域おこし協力隊 ハートランドファーム社長、他地域の方々	
11/21	木	2 h	プレゼンテーション研修	株式会社山のむこう（学習塾STEM）	
12/5	木	2 h	2学期のまとめ、発表準備（テーマ決め、原稿準備、リハーサル等）	教務主任、1学年団	学校祭に向けての準備
12/12	木	2 h	「やってみよう」発表（1人1発表×4ターニング程度実施）	学校祭に来てくださった地域の方々、在校生（2・3年）	学校祭にて実施
12/17	土	1 h	発表のふり返り（まとめ、共有）	教務主任、1学年団	
1/24、31	金	1 h × 3	Let's Talk！（テーマのブラッシュアップ）	教職員全員（生徒の希望した教職員との対話タイム）	
2/18	火		マイブロージェクトアワード東北summit2019観覧	希望1学年生徒5名、教員3名	教員の研修も兼ねる
2/22	土		今年度のふり返り（まとめ）、次年度への展望	教務主任、1学年団	
2/25	火	1 h			

○カリキュラム内（2・3年「総合的な学習の時間」）での活動

月日	曜日	時間	担当	対象生徒	主な内容	指導者・支援者	備 考
6/4～5		1 2 h	3学年団、進路指導課	3年就職 希望者	インターンシップ（キャリアアップウィーク）	地域企業	
7/9～11		1 8 h	2学年団、進路指導課	2年	インターンシップ	地域企業	
7/10	水	2 h	教頭、3学年団	3年	高校生議会＋町議との意見交換会	小国町役場	今年で3年目
9/4	水	1 h	3学年団、進路指導課	3年就職 希望者	企業人面接	小国町商工会（面接官8名程度）	例年実施
10/25	金	1 h	2学年団	2年	マタギ文化について学ぶ（アメリカ修学旅行事前学習）	民宿越後屋	
3/13	金	3 h	1・2学年団、教務図書課	1・2年	町内企業等若手社員と高校生との懇談会	小国町総合政策課、株式会社ジョブウェブ、個人事業主（域学連携事業経験者）、町内企業の若手社員	今年で2年目 新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
3/18	水	2 h	1・2学年団、進路指導課	1・2年	校内企業説明会		新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

※「総合的な学習の時間（現行）」「総合的な探究の時間（新学習指導要領を受けて今年度より先行実施）」とは…

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための

資質・能力を育成することを目指す授業です。要するに、教科や科目等の枠を超えて探究する価値のある課題に取り組んでいく授業になります。

令和元年度 各教科および課外等における地域と協働した活動実績

山形県立小国高等学校

○カリキュラム内（各教科・特別活動〔ホームルーム・学校行事・生徒会活動〕）での活動

月日	曜日	時間	教科	担当	対象生徒	主な内容	指導者・支援者	備 考
4/26	金	午後	LHR	2学年団・3学年団	2・3年生全員	満天の家 お年寄りの交流会・清掃活動	満天の家 ケアマネージャー	
6/10 6/13	月 木	2h 2h	理科	教科担当教員	3-2選択者 2-2選択者	玉川の水質調査 沖庭地区の川の水質調査		町バス協力
7/3	水	1h	国語 家庭	教科担当教員	1-1	人権教室（ジェンダーやLGBTに関する理解を深め、多様性の承認の一助とする）	洞松寺住職 他 人権擁護団体の方々	
9/6 9/20	金	2h 4h	家庭	教科担当教員	2-1	道の駅にて郷土料理のフィードバック 山形大学フィードバックプロジェクト準備	白い森おぐに駅長 他 山形大学 小酒井先生、矢口先生	
9/9	月	3h	体育	教科担当教員 養護教諭	1-1	普通救命講習	西置賜行政組合消防署小国分署 3名	普通救命講習修了証を取得 2年目
9/12	木	2h	HR	教頭、担当教員	1・2年	生徒と地域の大人の対話会「幸せって何だろう？」（ワークシヨップ、トークフオークダ ンス）	山形青少年健全育成会議 小国地区担当 小国町教育委員会	
10/9	水	3h	体育	教科担当教員	3-1	パークゴルフ演習 （水源の郷パークゴルフ場にて）	小国町パークゴルフ協会	町減免申請あり
10/18	金	3h	家庭	教科担当教員	1-1	「活力あふれる食育推進事業」強いカラダを作るための食育講座と調理実習	山形大学 矢口友理先生、県教育庁職員 1名、小国町健康福祉課4名	
10月		3h程度	英語	教科担当教員	2-2、3-2 選択者	小国町の農家よりいただいたカボチャを使用したハロウィン演出	小国町農家	3年目、学校敷地内を装飾 美術の授業でもカボチャを使用した作品づくり
11月			美術	教科担当教員	2年 授業選択者	白い森芸術祭町民作品展への出展	小国町教育委員会	2年目、昨年度はサミット・ボ ランティニアアワードの成果発表
11月		1h	国表	教科担当教員	2・3年・ 職員	小国町芸術展示会 俳句・短歌の出展		
12月			美術	教科担当教員	2年 授業選択者	アスモコミュニティスペースでの美術展	小国町役場、ショッピングセンターアスモ	
12/12	木	1h	行事	担当教員	代表生徒	学校祭 模擬店出店に関わる防火講習	高畠消防署1名	2年5名・1年1名
12/14	土		行事	担当教員		学校祭 地域の大人との模擬店		
12/17	火	2h	保健	教科担当教員	1-1	「交通安全」に関する授業	小国警察署 地域交通課長	
1~2月		4h x 4回	体育	教科担当教員	1・2年	スキー授業（横根スキー場）	地域の方々（4~5名）	例年実施
1/21	火	1h	家総	教科担当教員	1-1	「フェアトレード」に関する授業（調理実習）	旬彩工房	
1/21	火	1h	現社	教科担当教員	2年	職業について考える	小国警察署員 5名	
2/21	金	2h	保健	教科担当教員	2-1・2	SDGsカードゲームを使っでの環境教育	まよひが企画	

○カリキュラム外での活動（課外活動）

月日	曜日	時間	関連	担当	対象生徒	主な内容	指導者・支援者	備考
4月				担当教員	希望生徒	空き家見学	小国町役場総合政策課	今後の活動企画に活かす目的 参加生徒2名
4/29	月	朝1h			希望生徒	小国町春の道路一斉清掃	白い森おぐに保小中高一貫教育推進協議会	参加生徒9名
5/19	日				希望生徒	「アスモに交流の場を」打合せ	旬彩工房	参加生徒2名
6/10	月	昼休み		担当教員	参加生徒	昨年度の傾聴ボランティア参加者へのメッセージ伝達とミニライブ	満天の家 ケアマネージャー	参加生徒4名
6/17	月			担当教員	希望生徒	小規模校サミットファシリテーター研修（東北芸術工科大学）	岡崎エミ先生、小野寺真希さん	
7/1	月	午後		担当教員	全校生徒	小規模校サミットリハサル～地域の方々と交えて～	東北芸術工科大学 准教授 岡崎エミ先生 荒屋デザイン 小野寺真希さん 小国町役場総合政策課	
7/6	土	終日		希望職員	希望生徒 (希望職員)	Let's Go 青春～白い森ハーブ絶断～	小国町総合政策課、地域おこし協力隊 他	事前に生徒と打ち合わせあり 参加生徒11名、職員3名
7/16	火	1h		教務主任	希望生徒 (希望職員)	アプリ制作の基礎講座	株式会社サンノー企画印刷	希望生徒6名
7/17	水	午後		全職員	全校生徒	サミット全校ミーティング	小国町役場総合政策課、地域おこし協力隊	ボランティアアスタススタッフとして生徒6名参加
7/30	火				希望生徒	小国町小中学生サイエンス講座		
6・7月				担当教員	コアメンバー	サミット総合企画助言	東北芸術工科大学 准教授 岡崎エミ先生 小国町役場総合政策課、卒業生	米沢有為会 地域と私たちの未来を考える小論文コンテスト 優秀賞
6・7月				担当教員	希望生徒 コアメンバー	サミットレセプション企画協力	満天の家 ケアマネージャー 道の駅駅長・料理長	
6・7月				担当教員	担当生徒	サミット昼食企画・準備	PTA	
7月				担当教員	担当生徒	サミットドローン撮影講習会・協力	地域おこし協力隊 根本俊輔さん	
7月				担当教員	担当生徒	サミット広報・小国町紹介ブース	速藤愛さん・八幡竜馬さん・根本俊輔さん	参加生徒4名
7月				担当教員	担当生徒	サミット救護・熱中症対策レベルアップ講座	消防小国分署	参加生徒8名
8/18	日				希望生徒	小国町サマーズボーズ大会		運営補助協力生徒4名
8/27	火	放課後	保健委員会	養護教諭、理科教員	保健委員	お掃除ロボットの開発 (小国小学校でのアンケート調査)	TEPIAチャレンジ事業 WEB面接 デザセンコンテスト1回戦突破	
9/21	土	午後	(英語)	外国語科教員	希望生徒	イングリッシュ・アドベンチャー	小国町教育委員会	例年実施、希望生徒4名
9/26	木	1h	(家庭)	家庭科教員	希望生徒 (希望職員)	認知症サポーター養成講座	小国町健康福祉課 主任保健師 他	受講後、オレングリッグ付与 希望生徒15名、職員7名
10/2	水	午後		担当教員	希望生徒	傾聴ボランティア ～回想法を用いたアプローチ～	満天の家 ケアマネージャー	事前に生徒との打ち合わせや指導あり、希望生徒15名、2年 目、介護実践発表会で「教育改 革と運動した新たな地域コ ラの創造」と題し研究発表
10/6	日			担当教員	希望生徒	自然楽校でお祭りだ！ 小中学生活動サポーターボランティア	山形県飯豊少年自然の家	参加生徒1名
10/11・ 17・24・31・ 11/6	木 水	2h×5回		担当教員	希望生徒 (希望職員)	アントレプレナーシップ教育講座（全5回）	株式会社山のむこう 代表取締役 学習塾ESTEM（エステム）	謝礼等は地域協働より支出 希望生徒5名、ビジコンと絡め て

10/17	水	午前			養護教諭	希望生徒	献血ボランティア	小国町赤十字奉仕団、小国町健康福祉課 置賜総合庁舎	3学期に献血協力者・希望者に 対し、交流会を開催予定。希望 生徒8名
10/19	土	午後			担当教員	希望生徒	小国町ハロウィンイベント	地域おこし協力隊	事前に希望生徒との企画・準備 全5回、希望生徒13名
10/20	日	午後			担当教員	希望生徒	置賜地区高校生地域活動セミナー (堀江守弘さん、嵯原紘子さんの講話と地域 の高校生とのワークショップ)	小国町教育委員会 置賜教育事務所 社会教育課	希望生徒8名、町バス協力、2年 目
10/23	水	午前			教頭、A L T		小国町警察署員対象の英語運用力向上セミ ナー	本校英語科職員 (A L T、教頭) による指導	
10/27	日				担当教員	希望生徒	災害非常時の吹き出し訓練 小国町赤十字奉仕団との交流会	小国町赤十字奉仕団、小国町健康福祉課	事前に全校集会で呼びかけ 参加希望生徒6名
11/7 ～2月	木	集会 放課後			担当教員	全校生 希望生徒	おぐにビジネス創出塾 ～新規事業の立ち上 げとアントレプレナーシップ教育～	NPO法人 札幌ビズカフエ理事長 石井宏和さ ん 小国町役場	アントレ教育をさらに具体化・ ビジネスプランの作成とコンテ スト出場
11/9	土				担当教員	希望生徒	おぐにこどもの日まつり だがしや楽校子ども体験ブースの運営	小国町教育委員会	
11/28	木	午後			担当教員	希望職員 地域の方々	S D G s 2 0 3 0 カードゲーム	まよひが企画	若者サポーター支援制度を利用
12/3	火	午後			担当教員	希望生徒	傾聴ボランティア	満天の家 ケアマネージャー	
12/3	火	午後			担当教員	希望生徒 3年2名	おぐに白い森ビジネス創出塾	小国町総合政策課白い森ブランド戦略室 白い森おぐにビジネス創出塾事務局	
12/7	土	午後			全職員	担当生徒	白い森おぐに教育フォーラム	小国町教育委員会	
12/14	土	午後			担当教員	全校生	満天の家より雑巾贈呈	山形県教育委員会	日頃の活動への感謝の気持ち
12/21	土	終日			担当教員	担当生徒	山形県探究型学習研究発表会	小国町総合政策課白い森ブランド戦略室 白い森おぐにビジネス創出塾事務局	生徒6名参加
12/26	火	午後				希望生徒 3年2名	おぐに白い森ビジネス創出塾		
1/11	土	午後			担当教員		地域未来を拓く若囚フォーラムin置賜	地域と係わる探究型学習成果パネル (ポス ター) 展示	「白い森未来探究学 (1年) お ぐに町探検レポート」「山形県 探究型学習研究発表会でのポス ター」展示
1/13	月	終日			担当教員	希望生徒	N高校生との交流 (職業体験「講師マタギに 触れる雪合宿」in小国町)	小国町役場総合政策課	参加生徒5名
1/25	土	午後				参加生徒 3年2名 参加職員 1名	おぐに白い森ビジネス創出塾ビジネスブラン コンテスト	小国町総合政策課白い森ブランド戦略室 白い森おぐにビジネス創出塾事務局	起業アイディア賞「小国のおい しいカフェと食蔵」、オーディ エンス賞「地方活性化パーチャ ルニューパーバー」をそれぞれ 受賞
2/4	火	午後			担当教員	希望生徒	除雪ボランティア	小国町社会福祉協議会	生徒10名希望→雪不足で中止
2月						希望生徒	小国町ウィンタースポーツ大会		希望者1名、小雪のため中止
2/7	金	午後			担当教員	希望生徒	生徒と公務員との懇談会	山形市役所、小国町役場	
2/20	木	午前			3学年年団	3年全員	高校生のための身近な法律講座	山形県司法書士会	
2/27	木	午前			3学年年団	3年全員	年金セミナー	米沢年金事務所	
3/10	火	午後				希望生徒	健康生活支援講習	小国町赤十字奉仕団	新型コロナウイルス感染症拡大 のため中止
通年					生徒保健課長	全校生	旬彩工房のパン販売、ヤクルト販売	旬彩工房さん、ヤクルトさん	
7月～1 2月					担当教員	希望生徒 2年女子1 名	介護職員初任者研修	町介護研修担当者	研修修了証取得

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け
各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、特別活動（LHR、学校行事等）の中で実施。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ教科等横断的な学習とする取組みについて

地域で活躍する方々の協力や地域内施設の活用による能動的な授業を積極的に行っている。ジェンダーに係る多様性、人権の問題など学際的な内容を国語科、家庭科が合同企画で扱う授業や、保健体育科で実施した、地域の方々の指導による体験的スポーツ活動を通して地域の魅力発見につなげる授業など、多角的視野での授業を試行的に行った。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

地域課題の発見・解決を通し新しい価値観を創造することを基本理念に地域との協働による多様な活動を精力的に企画・実施した（総合的な探究の時間、授業、特別活動等）。座学だけでなく地域の外部講師との対話、協働活動や生徒が自ら校外に出ていくフィールドワークなどの活動を多く取り入れることで、自己と他者、地域との関わりを体験的に学ばせることを重視しながら、毎回振り返りの時間を設定し、学習内容のより深い定着を図った。

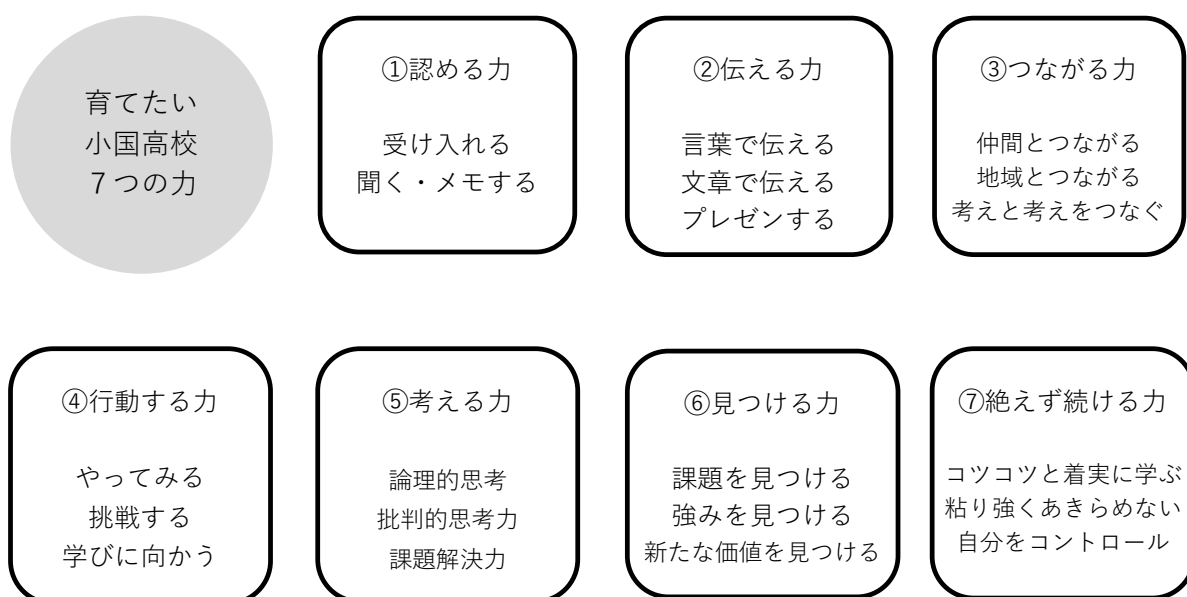
⑤成果の普及方法・実績について

地域の教育的イベントにおける発表や報告、町報や新聞折込みによる町民への周知、地元ショッピングモールでの成果物の展示等を行った。

（３）研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

育てたい生徒像の共有とともに、校内に教務課員を中心とした「プロジェクトコアチーム」を作り、カリキュラム開発専門家を交えて長期的、短期的な展望での地域の人的、物的資源の活用、教科横断的な視点での学習活動の推進体制が整った。



育てたい ニ オグパワフ 小国高校 7つの力

教育目標

- 1 地元に着と誇りを持ち、
地元を分厚く支援できる
人材の育成
- 2 主体的な社会参加を通じて、
多様性を認め、協働できる
人材の育成
- 3 豊かな心と健全な体を持ち、
新たな価値を創造できる
人材の育成

求める人物像（白い森人）

卒業後に地域で就職
または将来地元で就業し、
地域づくりにとも積極的
主体的に関わる人材



学 び の 土 壌

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

全職員が分担して先進校視察や各種研修会参加を行い、情報共有を全体で行うという形を基本に進めている。地域と協働した学習活動の企画運営はプロジェクトチームのリーダーである教務主任の主導で学年や授業の担当者が外部と連絡調整を行い、該当する学年とともに企画運営に当たるといった形で進めた。

③学校長の下で研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

プロジェクトコアチームを含めた実務者レベル会議を定期的に行い、学校長に進捗状況を報告・説明した上で様々な指導助言を求め、校内組織の改善や必要な支援等を検討している。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

定期的な会議において、進捗状況を報告し、総合的な視点からの助言を求めた。第4回目の会議では、実働組織として何ができるかについて意見交換がなされ、キャリア教育の核となる「企業発信型長期インターンシップ」やアントレプレナーシップ教育、地域との協働による教科横断的な授業を支援する外部人材の確保などが話題に上った。その中で、町の代表からは、地域と学校をより安定的につなぐ「学校魅力化コーディネーター」の配置決定が報告されたことは今年度の取り組みの大きな成果の一つである。目覚ましい実績を上げている地域や高校の事例についてはオンラインで当該関係者の話を直接聞くなど、コンソーシアム全体の研修も行った。

8 目標の進捗状況、成果、評価

①コミュニティ・スクールの特性を活かした地域における実践的な主体との連携

1年次の地域文化学において、12講座と3回のフィールドワーク、2度の発表会（校内）を行った。外部から招いた地域内外の講師は12名となった。取組み発表は、1年生全員が12月の学校行事の中で、現段階での個々の研究計画について校内外の参加者から広く意見を求める形で行った。また、全体的な取組みについては保小中高一貫教育推進協議会が主催する教育フォーラム等の場で発表し、広く町民への周知を図るとともに、今後の教育活動への全面的協力を求めた。個々の生徒の評価については、講座やフィールドワーク等終了時に全体で行う振り返りを経て、活動内容やそれぞれの活動に応じて設定した3段階の目標（S:標準をはるかに上回るレベル/A:標準を上回るレベル/B:標準とし、ここまでは到達すべきレベルとし、活動内容に応じてわかりやすく言語化）に基づく自己評価等を記入したノートを提出させ、学年担任が指導助言を行いながら、到達度における評価を積み上げ、全講座終了後に最終的な評価をする方式で行った。この際に用いるルーブリックについては検討中であり、来年度には実用化する。意欲・能力等の変化については年度当初と年度末のアンケート（三菱UFJ高校魅力化評価システム）の比較を通して検証する。

②保小中高一貫教育を活かした小中学校との連携による白い森学習の段階的教育

中学生の白い森学習の活動への助言や支援としては、2月の連携型入学者選抜に係る関連資料の作成に際し、中学校の教員を通して行った。また、本校生が主体となって運営した地域の方々との対話会においては、中学生も交えたワークショップを行った。

③地域外での表現・交流の機会を増やすことによる多様性の確保

山形大学における研究活動（夏季休業中）に2名参加した。また、全国高等学校小規模校サミット（7月31日本校主体の実行委員会主催）前にファシリテーション研修（6月17日）を実施するとともに、町外で開催された高校生地域活動セミナー（10月20日）に8名、県探究型学習発表会（12月21日）に6名、東北芸術工科大学でのSCHシンポジウム（2月23日～24日）に6名が参加し、それぞれ意見交換や取り組みについてのプレゼンテーションを行った。また、2月29日にはYTS（山形テレビ）「提言の広場」に本校生3名が出演し、小規模校サミットを中心とした今年度の様々な活動で得た成果や地域との協働活動における思いや意義について発表した。

9 次年度以降の課題及び改善点

学校と地域や外部の人材とつなぐ高校魅力化コーディネーターの配置による講座等、学習活動の企画運営の効率化、ICT環境の整備、前述の評価に係るルーブリックの作成を進め、一層魅力的なカリキュラム開発を図る。

白い森人創生プロジェクトチーム【山形県立小国高等学校】

令和元年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

白い森人創生プロジェクト

白い森

研究開発の背景

小国町保小中高一貫教育の柱の一つである地域学習を、高校段階では「白い森未来探究学」という3年間の学びに発展させ、高校と地域がより密着した学びに発展させ、地元への愛着や誇りを養い、積極的に地域とつながり、地域活動に取り組む人材を育てることで、地域活性化の一躍を担う。

令和元年度の目標と取組状況・成果

保小中高一貫教育を活かした小中学校との連携による白い森学習（本町の地域学習）の段階的教育

コミュニティ・スクールの特性を活かした地域における実践的な主体との連携

地域外での表現・交流の機会を増やすことによる多様性の確保

本校生が主体となり運営した「地域の大人との対話会」や「全国高等学校小規模校サミット（本校主体の実行委員会主催）」などへの町内中学生の参加・参観（高校生がファシリテーター）

1年地域文化学は12講座・フィールドワーク3回・校内発表2回、町教育フォーラム（一貫教育推進協議会主催）では学校全体の取組を発表

3学年「地域文化学」
今までの経験や知識・研究から新たな課題を
2学年「地域文化学」
個々の課題を設定し、調査・研究・発表する
1学年「地域文化学」
自己の興味関心を定める 基礎的な知識・技能を学ぶ

山形大学工学部研究活動3名、東北芸術工科大学ファシリテーション研修19名、地区高校生地域活動セミナー8名、県探究型課題学習研究発表会6名（優良賞）、YTS山形テレビ演説の広場（県経済同友会企画）3名出演



今後の課題

☆ICT環境の整備

☆コーディネーターの配置

☆魅力的なカリキュラム開発

☆入学希望者数の拡大と全国募集

☆長期インターンシップ

10 地域協働 主な活動報告

10-1 先進校視察（島根県 津和野高等学校、隠岐島前高等学校）

1. 日程

令和元年 6 月 11 日（火）～16 日（日） 津和野高校 2 日・隠岐島前高校 3 日

2. 視察報告 佐藤 志野

3. 学校概要

	津和野高校	隠岐島前高校
所在地	島根県鹿足郡津和野町後田八 12-3	島根県隠岐郡海士町福井 1403
町の人口	7,478 人(2017 年 3 月)	2,293 人(2017 年 3 月)
生徒数	182 名(定員 80 名) 内 県外生 61 名	157 人(定員 80 名) 内 島外生 87 名、県外生 74 名
教員数	26 名 主幹教諭 1 名 コーディネーター 3 名	33 名 主幹教諭 2 名(内 1 名は埼玉県から) 学校経営補佐官 2 名 コーディネーター 6 名(4 名常駐)
クラス数	3 クラス(ビジネス・文系・理系)	2 クラス(科目選択制)
寮	つわぶき寮 入寮者 59 名 (県内生 29 人、県外生 30 人)	三燈寮(男子)、鏡浦寮(女子) 入寮者計 85 名
特色	T-PLAN(総学) グローカルラボ(部活動) 町営英語塾 HAN-KOH	SGH・シンガポール海外研修 夢探究(総学) ヒトツナギ部/レスリング部 地域連携型公営塾 隠岐国学習センター『夢ゼミ』

4. 視察内容

(1) コーディネーターと主幹教諭、学校経営補佐官

- ◆ コーディネーターの役目：地域の人と生徒をつなぐ、進学指導(志望理由書、面接)、授業、総学の講師
- ◆ コーディネーターの資質は様々；吉賀町は町の有力者、津和野高校は若手(地域おこし協力隊出身等)
- ◆ 主幹教諭の役目：改革を進めるコーディネーターと他の教員をつなぐ
- ◆ 学校経営補佐官：“チーム副校長”；資金を集める、WS をするなど
- ◆ 授業に縛られないスタッフ

(2) 公営塾の役目

◆ 津和野高校 町営英語塾 HAN-KOH

- ① 1 学期分 4~6 回 1 セットの講座を開き、生徒を募集する
- ② 講座内容は英語の学び直しや補強、AO・推薦講座など
- ③ 第 3 の居場所、斜めの関係を築く場所
- ④ 高校との密な連携
 - ◆ 高校の補習に場所を提供／HAN-KOH 講師が学校の授業の TT に入る／HAN-KO 講師(及びコーディネーター)が志望校検討会に入る／塾での学習内容を学校に報告／寮生の学習習慣確立のための支援
 - ◆ 高校でできないことをやる；研修旅行、鍛錬行事、キャリア教育、学び直し…
- ⑤ 地域との連携
 - ◆ 町の人からお米を無償提供してもらって「おにぎりプロジェクト」

◆ 隠岐島前高校 隠岐国学習センター

- ① 120 名の生徒が通塾している
- ② 学習支援
 - ◆ 国公立大志望の生徒は週 5 日学習しに来る
 - ◆ ほぼ日手帳に計画を立てて毎週メンターと 15 分面談
 - ◆ 「くら」「おき」「どま」の 3 カ所を色分けし、やりたい方法で自習する
- ③ キャリア教育
 - ◆ 1, 2 年次前期は一緒に探究する→後期 1 年生は探究手法(問いの立て方等)を学ぶ、2 年生は夢ゼミ
- ④ 夢ゼミ
 - ◆ 2 年次秋から開始
 - ◆ 「やりたいことがない」と言える、何を話しても認めてもらえる環境
 - ◆ 自己開示→問いを立てる→発表会、「かたらーや」など

(3) 県外生の受け入れについて

- ① メリット
 - ・“選ばれている学校”だと示す
 - ・多様性、県外生からの刺激
 - ② デメリット
 - ・“ドロップアウト生”、押し付ける親→生徒指導の手間
 - ・寮の費用；建設約 1.5 億円、維持費年間約 3,000 万円
- ※ 島根県はもともと県内生のための寮を持っていた学校が多い

(4) 総合的な学習(探究)の時間

◆ 津和野高校 T-PLAN；1～2 年次

- ① 3 年間の流れ
 - ◆ 1 年次 受け身、刺激を受けて考える(ブリコラージュゼミ、フィールドワーク、トークフォークダンス)

- ◆ 2 年次 地域に出て行く(プロジェクトウィーク)
- ◆ 3 年次 自分自身のことを考える
- ② 学年団とコーディネーターと一緒にプランニングする→担当者の当事者意識
 - ◆ 共通のキーワードは“地域の大人” “振り返り” “少人数”
- ③ 町全体がフィールド
 - ◆ 川沿いのコンパクトな城下町→フィールドが近い、歩いて行ける
- ④ 町全体で育てる環境
 - ◆ 町の人；教員の持っていないスキルの提供、コーディネーターが各生徒に合う大人につなぐ
 - ◆ 地元資源を生かす→持続可能性
 - ◆ 町役場とのネットワーク；町教委、移住定住課の中に高校支援の部署、グローバルラボと森林課の連携
- ⑤ やる気を出せる環境づくり
 - ◆ 座る探究／動く探究 幅広く許容する
 - ◆ 自分で選ぶ；ブリコラージュゼミで興味を探る→アンケート→テーマを磨く→プロジェクト決定
 - ◆ 1 プロジェクトの人数制限なし；個人でも複数人でも OK 今年度は 12 プロジェクト
 - ◆ 1 対 1 だからやらざるを得ない
- ⑥ 振り返りは直後に言語化
 - ◆ 体験 3h+振り返り 1h がセット
 - ◆ ワークシートで振り返り方を学ぶ→理想は白紙に書けるようになること
 - ◆ 年度末に自分が何をやったか示せるようにする(発表形式は自由)
- ⑦ 強みを生かせる生徒を育てる
 - ◆ 偏差値で勝負する生徒／それ以外で勝負する生徒；「上下」ではなく「幅」
 - ◆ 総学でやったことが部活(グローバルラボ)や個人での活動につながる
→県外生「せっかく津和野に来たんだから何かしたい」「やってる先輩楽しそう」「やるのが当たり前だと思ってる」
- ⑧ 生徒の変容
 - ◆ 受け身から能動へ；「やってみたら興味出た」→「授業じゃ足りないから自分でやる」
 - ◆ 話を聞いてくれる、語れる地域の人がいる→やりがい、やる気
 - ◆ 経験を言語化できるようになる
 - ◆ コミュニケーション能力の向上；大人と話すことで会話の始め方、続け方を学ぶ
- ◆ 隠岐島前高校 夢探究

① 3年間の流れ

- ◆ 1年次 基礎力をつける、自分探し(話し合い、インターンシップ、企業大学説明会)→班分け(教員が指定)→テーマ決め
- ◆ 2年次 班ごと探究→大学生相手にプレゼン→発表会→シンガポールでプレゼン→進路目標の設定、志望理由書の作成、行動計画作成
- ◆ 3年次 ポートフォリオの作成→進路実現のためのPDCAサイクル→学びの継承

② 班ごとにメンターがつく

- ◆ メンターになるのは学年団+コーディネーター
- ◆ 学年会の中で情報を共有し、生徒への関わり方について打ち合わせる

(5) 地元生の入学率向上のための取り組み

そもそも“なくなる学校”には行かない／「来てやった」という気持ちが学校を荒れさせる→「来てください」ではなく「いい学校だよ」

◆ 津和野高校のイメージ戦略

- ① グローカルラボが町のイベントに出る
- ② 町のフォーラムで高校生が発表する
- ③ ツコウトレーナーを視界に入れる
- ④ トークフォークダンスに参加した大人が話を広める
- ⑤ HAN-KO 中学部開設

◆ 隠岐島前高校 小学校～中学2年生との交流

- ① 小学校で実施されている子ども議会への協力→「しましま」創刊
- ② バスケ部同士の合同練習
- ③ 西ノ島の公営塾に講師として教員を派遣
- ④ 中学2年生と高校生が本音で語る場を設ける
- ⑤ 教科内の中高連携、地域の集まりに参加する→顔見知りを増やす、情報を得る

(6) 学校と地域の関係（津和野高校より）

◆ 学校から地域へ

- ① 津和野に対して能動的な生徒を育てる
 - ◆ 能動性＝3年間で何回「津和野」と口にするか；言葉を発することで定着する
 - ◆ 町を知る＝人を知る；津和野高校に入る生徒が増えれば津和野を知っている人の数が増える
 - ◆ 志望理由書として言語化する→頭に残る→Uターンの可能性増；Uターンする比率は変わらずとも全校生徒数(＝母数)が増えれば絶対数が増える
 - ◆ 個人事業の継承者または顧客を引き継ぐ人を育てる
- ② 町の高校生の希望の最大公約数を提供する
- ③ 学校に必要なものをちゃんと発信する

- ◆ 今やっていることを意味付け・言語化する→足りないものが見えてくる
- ◆ 校内でも学校について説明する場を作る、〇〇について話す有志の会を開く
- ④ 理想は町内生：町外生＝9：1
- ⑤ 生徒一人が住民票を移すと地方交付税交付金が増える

◆ 地域から学校へ

① 町の違い＝高校の違い

- ◆ 吉賀町は農業の町→高校生が農産物を使って商品開発
- ◆ 津和野町は城下町・商家の町→みんな個人事業主→自由な文化

② 資金援助

- ◆ 県は地区内に適正規模の学校が在りさえすればいい＝この町に高校があってほしいのは町自身
- ◆ 島根県が高校魅力化予算をつける条件は経費を県と町が折半すること；県 300 万円＋津和野町 150 万円、地域おこし協力隊も含めると 7,000 万円くらい支出している(海士町は 1.2 億円くらい)
- ◆ コーディネーターは町が雇って県が委嘱している

③ コンソーシアム構想；コンソーシアムの立ち上げ→法人化

- ◆ 教員は「流行」でしかない；教員が変わって学校の魅力が減ってはダメ
- ◆ 地元企業にも参加・出資してもらう
- ◆ コーディネーターの待遇改善；地域おこし協力隊の給料では雇い続けられない→津和野町は県職員と同等の給料を払うことにしたが、所属や資金源がバラバラ、出張費が減らされる等の問題がある→コンソーシアムに所属させて自由に活動→様々な地域等から知識や経験を持ち帰ってほしい
- ◆ 他にも…
塾を NPO に管理してもらう→生徒のアイデアを商品化、利益を出す→運営費になど

10-2 アントレプレナーシップ講座

1. 期日

令和元年10月10・17・31日、11月6日 全4回 (10月24日は講師の都合により中止)

2. 時間

16:00～17:30

3. 場所

小国高校会議室

4. 講師及び参加者

講師 大垣 敬寛さん(株式会社山のむこう 代表取締役)

参加者 希望生徒5名、職員複数名

5. 内容

4回の講座で起業の基本的なプロセスをたどりながら、お金や起業について教わった。初回は「お金とは何か」や世の中の仕事について考え、2回以降は、お金を稼ぐためのプランを段階的に考えていった。同じ額の売り上げを目指すにしても、値段設定と販売個数の関係などを含めその手法は様々であることの説明を受け、生徒はそれぞれが扱いたい商材を複数の値段設定で売るアイデアを考えた。その後原価率や粗利率などを教わり、自分のアイデアについて収益性の側面から考えを発展させた。そして、ペイオフマトリクスなど思考のツールを教わり、自分のアイデアの中でも収益性と実現可能性の高いものを1つ選択し、そのアイデアについて6W2H思考をヒントにしながらビジネスのロードマップを完成させた。最後にはそのロードマップをお互いに発表し合った。

生徒にとって、身近なものを多角的に捉えて考える良い機会だったと思う。教科とのつながりもありながら、授業などでは見えない生徒の発想なども見ることができた。そしてこの講座は、生きる上で必要なお金について考えを深めるものであり、生徒の勤労観やキャリア形成に大きく貢献するものであり非常に重要なものだと思う。

6. 写真



10-3 先進校視察（石巻西高等学校）

1. 期日 令和元年10月28日(月)
2. 時間 10:15～
3. 場所 石巻西高等学校
4. 報告者 小国高校（小松千穂、鈴木惇）
5. 参加者 東北6県高等学校関係者、行政職員、大学教員、大学生、NPO法人等 約60名
6. 内容
 - 1) 学びの土壌を豊かにすること
学校内で完結するのではなく、学校の外（町・地域）でも学びの土壌についての理解を深める必要がある。
 - 2) コーディネーターの必要性
石巻西高校では、地域との活動において「ISHINOMAKI 2.0」という団体がコーディネーターの役割を担っている。石巻西高校が地域と協働する活動を実践できるのは、授業時間の縛りが無いコーディネーターがあつてこそ。コーディネーターがいることで、1)の地域での学びの土壌も豊かになる。その効果は、他の義務教育学校まで広がっている。学校と地域の事情を理解し、双方を調整できる第三者がいることにより、地域と良好な関係を構築した学校運営を行うことが期待できる。

7. 感想

コーディネーターの役割は、未来の教員の姿なのか、新たな学校の職員の役割として立てる必要のあるものなのか、社会教育における役割なのか、その他地域の発展を推進するものが担う役割なのか、それとも融合的にシェアしながら担っていくのかということを教育界も地方行政も、共に発展的に考えていく必要があると思った。そこには、「どんな場所でも力強くやっていける子ども」を育てるという事柄に対して、大人自身の主体性や使命感が問われるのではないかと考えた。

地域との協働を進めていくにあたっては、教員が変わるというのはもちろんのこと、地域の人々の意識を変える必要があると思った。時間とともに変化していくものではあると思うが、今の高校生が大人になる頃にはというのでは遅いと思う。小国高校を応援してくれる仲間は増えてきているが、それを地域全体に拡大させる必要がある。いかにして地域全体の意識を変えるかが今後の課題の1つではないだろうか。

10-4 先進校視察（青森県立八戸東高等学校、青森県立八戸商業高等学校、岩手県立大槌高等学校）

1. 期日 10月30日（水）～11月1日（金）
2. 時間 10月31日（木）9：30～11：30 青森県立八戸商業高校
場所 15：00～16：30 青森県立八戸東高校
11月1日（金）14：00～16：00 岩手県立大槌高校
3. 出席者 八戸商業高校 商業教育部主任
八戸東高校 表現科主任、副主任
大槌高校 副校長、魅力化推進員（3名）
4. 先進校視察報告 小国高校 教頭 鈴木 通明

A.青森県立八戸東高等学校

<プロフィール>

全国唯一の「表現科」を設置。

学力の3要素の一つ、思考力、判断力、表現力を高め、豊かな心と感性を育むことをめざして、普通教科・科目のほかに、国語や英語での言語表現、身体表現、舞台芸術などに関する専門科目を幅広く学習させる。コミュニケーション能力の伸長もこの学科の目標の一つで、授業以外にも大阪大学教授でコミュニケーション教育の権威、平田オリザ氏の講演会など、多彩な教育活動を展開している。

進路状況は、大学進学者が7割、短大と専門を合わせ2割、就職1割といった状況。

◎表現科は平成15年、多くの高校が特色ある学科を盛んに設置していた時期に開設した。元々は人文学科というかがあり、それが名称変更とともに表現科に引き継がれた。表現科で育成を目指す能力はコミュニケーション能力、表現力。専門科目として、「映像表現」、ダンス等による「身体表現」、演劇等による「舞台芸術」がある。これらの評価はペーパーテストによらず、実技による到達基準に照らした評価を行っている。また、年1回各学年が市内の大ホールで発表会を行う。この発表会は盛大で、ここでパフォーマンスを行うということが生徒の最大のモチベーションを引き出している。地域からは生徒のコミュニケーション能力を高く評価されることも多い。平田オリザ氏は著書の中で、「八戸東高校の表現科で学んだ生徒は地域と学校に誇りをもって卒業していく」と評している。実際この学科を卒業したOBはよく学校を訪れ、後輩の指導にもあたっている。

◎授業外のワークショップも多い。企業人、舞踏家、アナウンサー、演出家、新聞記者、劇作家等によるワークショップを7月から2月まで各学年6回～8回ほど（3年生は2回のみ）行う。

◎講師の経費等は県の「ドリカム事業」の助成と後援会等の補助で賄う。

◎普通科が併設されているが、現在のところ大学進学は普通科の方が多い。

表現科としても進学者を増やしたいが、これからの入試制度改革によりこのような学科で学んだ生徒が優位に立つ時代が来ることを期待しながら指導に当たっている。

◎本校の新教育課程編成に向けて、教科横断的な視点での教科選択、学校設定科目の開発などの参考になる。

B. 青森県立八戸商業高等学校

<プロフィール>

八戸市郊外に位置する商業高校で伝統的に地元の学校という地域の認識が根強い。

商業科、国際経済科、情報処理科からなり、国際経済科は平成30年度より募集停止となっている。

「八戸圏高等学校地域活動推進事業」等積極的に地域との関わりをテーマにした研究活動を行っている。当事業の取り組みは課題研究の中で行われ、次のようなテーマで研究活動を行っている。

平成29年度「Androidアプリ開発講座及び調査研究」

平成30年度「地域の魅力発進！～地域との協働を通して～」

地域情報発信に係る課題を設定し、その解決を図るための探究力を育てる。また、課題発見力や計画力など創造的学習態度を向上させることを活動目的とする。

◎上記の事業後の生徒のアンケートでは、9割近くの生徒が、「地元に興味を持つことができた」「八戸の魅力を理解できた」「自分たちの活動が地域活性化につながった」という評価をしている。八戸商業高校は積極的にこのような活動に参加しているが、交通費の負担が大きい（郊外に位置するため）と感じており、このような事業の助成によりこの課題が緩和できているということである。

◎他に平成29年度、30年度はCOG（チャレンジ！！オープンガバナンス：学生や市民がデータを活用し、地域課題を解決するコンテスト）という東京大学公共政策大学院が主催する企画にも参加しており、29年度は最終審査までコマを進めた。単なるアイデア出しではなく、データに基づく説得力のある調査に裏付けされたプレゼンテーションを行い、高い評価を受けている。

◎地域のイベントには生徒自ら連絡を取り、学校代表として参加する。また、企業誘致のために、生徒自身が都市部の企業と直接連絡を取り、八戸の魅力や、誘致におけるメリット

などを調査によりまとめたものを企業でプレゼンさせてもらうような活動も盛んである。

◎学校祭、文化祭はなく、バザーという形で商品販売や研究発表などを行っている。

◎八戸圏高等学校地域活動推進事業」

当事業の中で、次のようなテーマで研究活動を行っている。

プログラミングで習得したJava言語の知識をもとに実社会で活用するための実用的な知識と技術を身につけさせるため、地元IT企業と連携しながら、地域情報発信に係る課題を設定し、その解決を図るための探究力を育てる。また、課題発見力や計画力など創造的学習態度を向上させる。

C. 岩手県立大槌高等学校

<プロフィール>

本校同様、平成31年度地域との協働による高校教育改革推進事業地域魅力型の指定を受けた。平成31年度に創立100周年を迎えた生徒数160名の小規模校である。東日本大震災で中心部が壊滅的な被害を受けた町を担う「復興人材」を育成するという目的をもち、年々減少する入学者（H21年度121名⇒H31年度42名）に歯止めをかけるべく、学校の魅力化を図る。

◎魅力化に向けた取り組みとしては、魅力化構想会議及びコンソーシアム会議等の設置、学校設定科目「三陸みらい探究」の開講、3名の魅力化推進員の配置がある。特に魅力化推進員はNPO「カタリバ」に派遣を委託、職員室に席を持ち各学年団に一人ずつ配置。授業は持たないが副担任として学年運営や学校行事に参加するが、主な役割は、

（1）魅力化ビジョンの策定推進（魅力化構想会議及びコンソーシアム会議の実施や教育魅力化先進地視察等を行う）

（2）総合探究の授業運営（1年総合探究、2年総合学習の授業企画・運営を行う）

（3）教育活動への地域資源の接続（町内外の社会人を講師とした「大槌発未来塾」の実施や文化祭の地域連携を行う）

（4）推薦入試・放課後活動への個別支援（AO／推薦入試対策指導や地域貢献活動の推進を担う）

（5）生徒募集・学校広報（学校HPの更新、町広報での情報発信、中学生向け高校説明会等を担当する）

である。

また、カリキュラム開発専門家と地域協働学習実施支援員を兼務する。

リーダーの推進員は大槌町で教育専門官を8年務め、町との強力なパイプとしての役割を果たす。

◎これまで3回の「大槌高校魅力化構想会議」を開催しているが、生徒、教職員、地域住民それぞれが魅力化についての会議を持ち、そのアイデアを基に生徒教職員が投票を行っ

た。

◎学校設置科目「三陸みらい探究」では、「自分プレゼン（中学３年生に対し自分の高校生活を語る）」「SIMおおつち（まちづくりゲームで大槌の課題を知る）」「マイプロジェクト（自分で決めたテーマで探究学習を行う）」を実施。さらに、特別授業として「大槌発未来塾（町内外で活躍する社会人や大学生との対話）」を開講している。

◎東北地区で小国高校、新庄北高校とともに、地域との協働による高校教育改革推進事業、「地域魅力化型」の採択を受けた高校。魅力化に係る構想会議を繰り返し、着々とその土台固めを行っている。

◎本校と環境が類似した高校であり、様々な情報交換ができる。

10-5 山形県探究型学習課題発表会

1. 期 日 令和元年12月21日（土）
2. 時 間 9：00～16：00
3. 場 所 山形国際交流プラザ 山形ビッグウイング 集会展示場
4. 参 加 者 生徒（6名：丹歩、舟山未羽、佐藤アンナ、鈴木衣舞、石塚翼、伊藤玲奈）
教職員（1名：阿部千穂）
5. 内 容 課題研究等のポスター発表による「山形県探究型学習研究発表会」の一般の部に参加。「あれもこれも自分事になって、やる気が湧いて、地域との活動が72に増えた件」というテーマで、学びの土壌やモチベーションなどについて分析してまとめ、発表した。

《成 果》 一般の部 優良賞

発表は1回12分（発表7分、質疑応答3分、審査・準備2分）とし、それを4ターン繰り返すスタイルのため、生徒の発表が回を増すごとにその場でブラッシュアップされていき、また、多様な年代の方々から質問を受けることにより、自分たちの研修がさらに深堀されていき、新たな課題や成果を得ることにつながった。

6. 状況写真



会場での発表の様子（本校生）



本校の発表ポスター

10-6 埼玉県立総合教育センター主催学校を核とした地域創生セミナー開催

1. 期 日 令和2年1月20日(月)
2. 時 間 13:00～17:00
3. 場 所 埼玉県立総合教育センター
4. 発 表 者 小国高校 板垣祥和 阿部千穂 小国町役場 高橋俊典
5. 出席者または参加者数等
埼玉県教委指導主事・埼玉県内自治体職員・埼玉県内高校教員 約80名

6. 内 容

- 1 開会(主催者より挨拶・登壇者紹介)
- 2 講義(芸工大・岡崎先生)
- 3 実践紹介(小国高校・小国町)
- 4 ワークショップ・質問会(フィッシュボール)※
- 5 閉会(主催者より謝辞)

※ワークショップ・質問会より抜粋

【小国高校・小国町の実践紹介より学んだこと・考えたこと】

- ・体験と楽しさからスタートすること
- ・まずやってみる！の姿勢が大切
- ・コアから全体へ
- ・生徒も教員も主体的に変化するコツ
- ・トップダウンとボトムアップ
- ・地域の巻き込み方(生徒×大人、地域協働ルール)
- ・学びの土壌の耕し方

【小国高校・小国町へ質問したいこと】

- ・教職員全員が参画しているか？
- ・生徒全員が参画しているか？
- ・地域や保護者は理解しているか？
- ・予算措置はあつての取り組みか？
- ・先生方が多忙化していないか？
- ・どのように時間を割いて取り組んでいるか？
- ・総探の評価は？

我々の事例発表について、埼玉県教育関係者によるワークショップ・質問会が行われ、これまでの取り組みを客観視することができた。強みだけでなく、知らず知らずのうちに乗り越えてきた課題、これから整えるべきことも明確になった。

7. 状況写真



10-7 先進校視察（岡山県立和気閑谷高校）

先進校視察「岡山県立和気閑谷高校」報告書（小国高校 佐藤崇之 早坂真央）

1. 視察日程

令和2年1月31日（金）～2月2日（日） 岡山県立和気閑谷高校2日

1月31日（金）教員向け学校説明会

2月 2日（土）1・2年次生「探究学習発表会」／第6回多様な主体による協働会議

2. 学校概要

所在地	岡山県和気郡和気町尺所15
町の人口	14,500人(2018年12月)
生徒数	345名（定員 普通科80名 キャリア探求科40名）※探求にしている 和気町 89名、赤磐市 125名、備前市 62名、岡山市 58名 瀬戸内市 9名、県外 1名
教員数	校長1 教頭1 主幹教諭1 指導教諭2 教諭30 コーディネーター 2名
クラス数	3クラス(普通科2・キャリア探求科1)
特色	閑谷学(総学) 地域協働探究(インターシップ) iPad,Qubena等の導入 授業改善の取り組み

3. 視察内容

1. 和気閑谷高校の特徴

岡山県和気町は県の東側に位置する町で、人口1万4千人程度の小さな町である。温暖な気候であり、自然災害が少なく、電車や高速道路などの交通アクセスも良い等、住みやすい。この住みやすさを求めて県外からの移住者が増えており、今回の視察においても3名の移住者に会うことができた。また、和気駅には移住者歓迎の動画を流しており、町を挙げて移住定住促進を試みている。

兵庫県との県境に位置する和気閑谷高校は周囲に高校がないこともあり、和気町や周辺の市町から生徒が入学する。現在では和気町の生徒よりも赤磐市からの入学生の方が多い。普通科80名、キャリア探求科40名の定員であり、進路についても4年生大学への進学・短大や専門学校への進学・就職が約30名ずつである。進路多様校とし指導に苦慮していた時代もあった。

現在の香山校長が平成25年に赴任して以来、授業改善を中心に様々な試みを行った結果、生徒の様子にも変化が見られるようになった。それまでの「上から押さえつける」教育から「生徒と共に考える」教育への転換が変化の大きな要因として挙げられる。

今年度から地域との協働による高等学校教育改革推進事業の指定を受け、昨年12月にコ

コミュニティ・スクールを組織し、「小中高の連携」「産学官の連携」「高大接続」などに向けた取り組みを実施している。特に次に挙げる3つは柱として教育活動を推進している。

①長期ルーブリックの策定

②パフォーマンス課題の開発

③デュアルシステムカリキュラムの開発

①については生徒が自分の資質・能力を自己評価し、数値化している。

- ・自己理解力 ・職業理解力 ・考察力 ・行動力 ・コミュニケーション力
- ・チームワーク力 ・自立力

身に付けるべき資質・能力と評価基準を共有することで自分の位置とゴールまでの距離を明確にする狙いがある。具体的な取り組みとしては、各学期に保護者の前で自分の目標と結果をプレゼンするなどがあった。

②については、各教科の授業担当者に「パフォーマンス課題」の設定を課し、これを学校ホームページに掲載するというものである。パフォーマンス課題とは授業内で行う探究課題である。課題を生徒に与えると同時に、ルーブリックも生徒に見せることで、生徒は自分の達成度を見定めて課題に取り組むことができる。教員についても授業をしながら、探究するため、双方にとって学びになるという素敵なシステムである。また、校内には「学力向上評価委員会」という組織があり、出席者は教員と各クラスの評議員となっており、生徒も授業に対してコメントできる。この企画の狙いは、生徒にとって面白い授業と教員が考える面白い授業のすり合わせであると感じた。

③についてはキャリア探求科を対象としたインターシップである。現在は2年生において8月・2月・3月にそれぞれ5日間ずつ企業にインターンシップに行き、課外の単位として認定している。この取り組みを今後は学校設定科目「地域協働探究」として、2年生3単位（終日×15日間）、3年生3単位（終日×15日間）として設定する予定である。これまでと違い、長期間インターンシップに行くことで、「おまけ」から「戦力」となれるようにする狙いがある。ただし、長期間受け入れられる企業を見つけることが難しいため、コンソーシアムに所属している商工会議所と連携していく。

2. 閑谷学（総合）

課題解決型探究学習である。1年生で1単位、2年生で2単位、3年生で1単位となっている。1年生では「学校や地域と自分のつながりを感じる」をテーマにし、探究学習に必要な技法を学び、和気高、和気町をテーマに学習し、フィールドワークを行って、発表する（2月）。2年生では「世界と自分のつながりを感じる」をテーマにし、SDGsの視点から和気町の課題解決を提案し、提案したことを実践するまで行い、発表する（2月）。1年生と2年生は分科会に分かれて発表し、投票によって代表を決める。各グループの代表が全校生の前で発表する。3年生では「進路分野の理想と現状を埋める」をテーマとし、1人ずつ分野別探究したうえで卒業論文を書き、発表する。

3. 姉妹校との国際交流

中国の高校2校（曲阜第一中學、嘉定第一中學）、台湾の高校1校（屏東女子高級中學）、韓国の高校2校（沃川高校、昌原龍湖高校）と学校訪問や修学旅行等で交流授業を行っている。

4. iPad, Qubena等の導入

H30年入学生徒から一人一台iPadを導入し、授業や探究活動において活用している。導入や活用については同志舎中学校・高等学校の取り組みを、iPadの使用ルールについては聖徳大学付属女子中学校・高等学校を参考にしている。iPad活用促進のため、教員ではICT活用促進委員会を、生徒ではICT委員会を立ち上げて、円滑な運用に向けて活動している。これ以外の設備としてプロジェクターを全普通教室及び一部の特別教室に設置し、コンピューター室は3室整備している。また、普通教室（年次進行）、会議室には無線LANが設置されている。

iPadを導入してみた変化としては、主に2つある。1つ目は生徒の個人内評価の充実である。JAPAN e-Portfolio（文部科学省）やClassi（ベネッセコーポレーション）を利用することで生徒の活動を電子データとして記録でき、生徒との面談や調査書等の記入に活用できる。また、三者面談では発表用アプリkeynoteを利用して生徒が親に自分の学びをプレゼンする機会を設けることができるようになった。2つ目は学習用アプリの利用である。特にCOMPASS社の「Qubena」は、算数や数学の学び直しができる。一人一人が自分のレベルにあった問題を解けることと、基本的な問題をこなしていくことにより、分かる楽しさを生徒は実感できる。この他にも、「Quizlet」「English 4skills」などの紹介があった。

この他にも、タイムカードアプリ「ミライム」の導入や教員研修用の動画をiPadで撮影するなど教員も幅広く利用している。一方で課題としては、不正使用をどのように制限するかなどが挙げられている。

5. コーディネーター

和気閑谷高校がコーディネーターを取り入れたのが平成26年である。この時、香山校長が赴任して2年目であり、地域おこし協力隊として大学生2人を町が雇うこととなった。1人はカリキュラム編成や放課後の学習指導の業務を担い、2人目は商店街の活性化を担当した。前者は高校内に常駐し、後者は高校の外での業務を担っていた。このため、高校の中と外の両方に対して協力を求めることができたため、非常によく機能していたが、町に残らない大学生を雇うことへの反発から、次年度からは社会人を雇用することとなった。現在は江守さんがコーディネーターとして閑谷学の助言や運営に関わっている。

6. 探究学習発表会

① 今年度のゼミ活動

＜1年次＞5つのゼミ

○観光 ○人口・少子化・婚活 ○空き家・移住者 ○商店街 ○環境・防災

＜2年次＞5つのゼミ

- 人口問題解決・理想の結婚式 ●まち活性化 ●環境問題・社会問題
- スポーツ・交流 ●Think Globally,Act Locally

② 参加者

- ㊦ 岡山県立和気閑谷高等学校生徒・教職員
- ㊦ 講師 11 名
- ㊦ その他、教育関係者や地域の方、保護者など

③ 当日の流れ

10 教室に分かれてプレゼンテーション【各教室】



各教室で投票を行い代表を決める



各教室の代表が全体（体育館）でプレゼンテーション【体育館】

④ その他

- ㊦ 司会・進行はすべて生徒が行っている。
- ㊦ 探究学習発表会実行委員があり、生徒が主体的に企画・運営を行っている。

7. 第6回多様な主体による協働会議

① 概要

であう・つながる・うまれる～一步踏み出すための対話の場～

「やりたいことがある」「知ってほしいことがある」「相談したい」「仲間がほしい」という高校生と市民がつながり、話をする事で、次の一步に向けての知恵や仲間や元気を得る場。（主催：岡山県立和気閑谷高等学校/共催：一般社団法人まなびと）

② 参加者

- ㊦ 和気閑谷高等学校生徒（各ゼミから1グループずつ選出）
- ㊦ 地域住民（備前市、赤磐市、和気町などから参加）
- ㊦ その他、教育関係者や関心のある方々

③ 当日の流れ

ピッチプレゼンテーション（やりたいこと・話したいことの紹介）



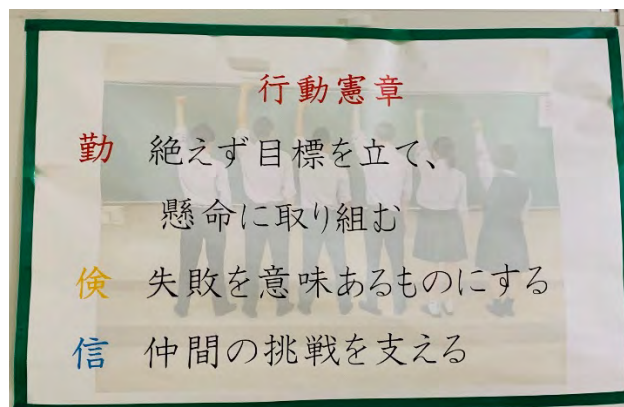
車座トーク（興味のあるテーマに分かれて話す）



全体共有・講評（グループで話し合った内容を発表）

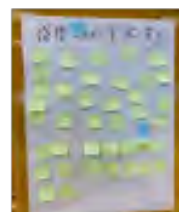
8. その他興味深い取り組み

- 今週の論語（以下 写真①）
- 行動憲章（以下 写真②）
- 学校に町の観光パンフレットを置いている（地域とともにある学校の在り方の一つ）。
- 職員会議を4人前後のグループで協議形式にしている（性別、課、学年バラバラで）。そうすることにより、若手もベテランも意見を出し、学校の運営に積極的になる状況ができ、参画意識が高まる。



9. 印象的だった言葉や話

- 子ども達を信頼してやらせようが大事。
- 大人の働き方改革＝生徒の学び方改革（放課後の時間の使い方）
- 和気高が変わったきっかけや経緯・・・学習者主体の学校づくりをしたい⇒まずは始めやすい総探から変えよう⇒地域おこし協力隊の存在が必要⇒地域おこし協力隊（大学生）と一緒に総探で生徒がいきいきしてきた！生徒が自分の考えを語れるようになった！化学反応が起きた！



10-9 全国高校生マイプロジェクトアワード2019 東北Summit 参観

1. 期 日 令和2年2月22日（土）
2. 時 間 7:00～18:00
3. 場 所 東北学院大学 土樋キャンパス ホーイ記念館
(宮城県仙台市青葉区土樋 1-3-1)
4. 参 加 者 希望生徒（5名：齋藤愛花、高橋亜佑那、今野優希、齋藤優輝、前田大翔）
教職員（3名：長岡郁子、佐藤佳代、松田明子）
5. 内 容 全国高校生マイプロジェクトアワード2019 全国 Summit に進む48プロジェクトを選出する場の1つである東北 Summit を参観する。

《成 果》 授業での探究学習や個人の課外活動にてマイプロジェクトを実行している同年代の実践例に直に触れることで、今後のプロジェクト実行のためのイメージができ、生徒の意欲につながったいい機会となった。

6. 状況写真



メイン会場での様子（本校生）



分科会での他校生の発表の様子

10-10 第6回 SCHシンポジウム

1. 期 日 令和2年2月23日（日）～24日（月）
2. 時 間 23日（日）10：00～16：30
24日（月）9：00～16：00
3. 場 所 東北芸術工科大学
4. 主 催 東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科 有志学生団体
5. 出席者または参加者数等 教員7名（教頭、長岡、板垣、佐藤佳、佐藤崇、佐藤志、阿部）、生徒6名
6. テーマ 「高校生も大人も変態できる学びの土壌づくり」というテーマで、高校、行政、民間のセクターを超えたネットワークで地域と高校生の未来を考える様々なワークショップが行われた。小国高校の教員と生徒が本校の取り組みについて発表し、参加者から絶賛を受けた。その他、地域との協働による多様な教育活動を県が主導してシステム化しようとしている長野県の先進的な取り組みをはじめ、「地域との協働による高校教育改革（地域魅力型）」に参加している数校から地域コーディネーターの活用など示唆に富む情報提供があり、大いに研修を深めることができた。

10-11 「白い森未来探究学」1年地域文化学

農業「小国町で農、自然、人との出会いを大切に」

1. 期 日 令和元年9月10日（火）
2. 時 間 13:25～15:15（5・6校時）
3. 場 所 小国地産株式会社（ハートランドファーム）、圃場（沖庭付近）
4. 出席者または参加者数等 1年生徒5名、教員1名
5. 内 容 講師：舟山泰則氏（小国地産株式会社代表取締役社長）
「小国町で農、自然、人との出会いを大切に」
農作業体験（枝豆の収穫・袋詰め）

6. 状況写真



敷石道から生まれた新しいお祭り～時代を超えてそこにあるものをつないでいく～

1. 期 日 令和元年9月10日（火）
2. 時 間 13:25～15:15（5・6校時）
3. 場 所 本校、黒沢峠
4. 出席者または参加者数等 1年生徒12名、教員1名
5. 内 容 講師：高橋泰弘氏（黒沢峠保存会会員、connect運営メンバー）
「敷石道から生まれた新しいお祭り“connect”～時代を超えてそこにあるものをつないでいく～」
講話とお祭り会場（黒沢峠）の散策・説明

6. 状況写真



お金の教室（お金とは？稼ぐとは？）

1. 期 日 令和元年9月17日（火）
2. 時 間 13:25～15:15（5・6校時）
3. 場 所 本校会議室
4. 出席者または参加者数等 1年生徒14名、教員1名
5. 内 容 講師：大垣敬寛氏（株式会社 山のむこう代表取締役／学習塾ESTEM塾長）
「お金の教室（お金とは？稼ぐとは？）」
講義とワーク

6. 状況写真



講話と和菓子づくり

1. 期 日 令和元年9月17日（火）
2. 時 間 13:25～15:15（5・6校時）
3. 場 所 本校調理室
4. 出席者または参加者数等 1年生徒8名、教職員6名

5. 内 容 講師：味田勝徳氏（株式会社 香月 四代目）
「1軒の良い菓子屋さんがあるだけで、町全体が元気になれる」
講話と和菓子づくり

6. 状況写真



おぐに町探検

1. 期 日 令和元年10月29日（火）
2. 時 間 8：50～15：15（1～6校時）
3. 場 所 小国町内（6班に分かれて各自のコースをまわる）、本校（6校時のみ）
4. 出席者または参加者数等 1年生徒22名、教員4名
5. 内 容 おぐに町探検（自分たちで行きたいところを巡るコースを設定し、そこで地域の大人と対話をしたり、一緒に何か活動したりしてくる）
6. 状況写真



いいで町めぐり

1. 期 日 令和元年11月11日(月)
2. 時 間 8:50～15:15(1～6校時)
3. 場 所 飯豊町内(3班に分かれて各自のコースを巡る)、本校(6校時のみ)
4. 出席者または参加者数等 1年生徒22名、教員4名
5. 内 容 いいで町めぐり(隣町を巡り、身近にある様々な取り組みについて、その取り組みに関わっている大人との対話や活動を通して、知見を広げる)
*詳細は別紙
6. 状況写真



いいで町めぐりスケジュール

11/11(月)いいで町めぐり

コース	A		B		C
カテゴリー	科学・産業		農業・自然		観光
メンバー	伊藤輝海 後藤李玖斗 佐藤元輝 佐野天飛 代場亜美 (男9女1 計10名)	伊藤颯斗 今野優希 佐藤優 鈴木蒼生 和田一誠 (男9女1 計10名)	大石蓮 齋藤優輝 戸田愛翔 横山大太 (男6女1 計7名)	金悠翔 田中陸翔 保科奈緒 (男6女1 計7名)	石塚翼 齋藤愛花 前田大翔 (男2女3 計5名)
8:50	学校出発(マイクロバス)				
9:00					
9:20					
9:40					
9:40	9:50	9:30	9:40		
10:00	山形大学×EV飯豊研究センター (40分) 担当:飯豊町役場職員	ひらすび牧場(30分) 担当:金田さん	飯豊町観光協会(120分) 観光協会で10分 その後、観光協会の車と タクシーに分乗して 展望台、ゆり園、農家 レストランエルベをまわり ながら、お話を聞きする (道の駅まで送迎してもらう) 担当:高橋さん		
10:20	10:20	10:00			
10:40	10:30	10:15			
11:00	デンソー山形(45分) ※既存の入口に集合 (内履き必要) 担当:人事総務課長 山口さん	あつも園芸(60分) ※農作業体験あり (汚れてもいい服装だが、 基本ハウス内なので そこまで汚れないはず) 担当:代表 厚母稔さん			
11:20	11:25	11:20			
11:40	11:40	11:40	11:40		
12:00	道の駅いいで めざみの里物産館 (昼食50分)	道の駅いいで めざみの里物産館 (昼食50分)	道の駅いいで めざみの里物産館 (昼食50分)		
12:20	12:30	12:30	12:30		
12:40	12:45	12:35	12:30		
13:00	HOTEL SLOW VILLAGE (30分) 担当:代表 堀江守弘さん	肉の田中屋(40分) 担当:鈴木さん(2-1衣舞の母)	道の駅いいで めざみの里物産館 (30分) 担当:宇津木さん		
13:20	13:15	13:15	13:10		
13:40	13:20	13:35	13:25		
	いいで天文台(30分) 担当:手塚さん	(有)銀波 [いいで米ネットワーク] (30分) 担当:新野真太郎さん	HOTEL SLOW VILLAGE (30分) 担当:代表 堀江守弘さん		
	13:50	14:05	13:55		
14:00	移動(マイクロバス)				
14:20					
14:40					
	学校到着				

動画作成

1. 期 日 令和元年11月14日(木)
2. 時 間 10:50～12:40(3・4校時)
3. 場 所 本校会議室
4. 出席者または参加者数等 1年生徒22名、教職員、評価者として町役場職員や地域おこし協力隊、地域の方々も参加
5. 内 容 講師：山中昭岳氏(学校法人佐藤栄学園 さとえ学園小学校 ICT教育担当)
小国町or小国高校のPRムービー作成
5班に分かれて作成し、発表
6. 状況写真



プレゼンテーション研修

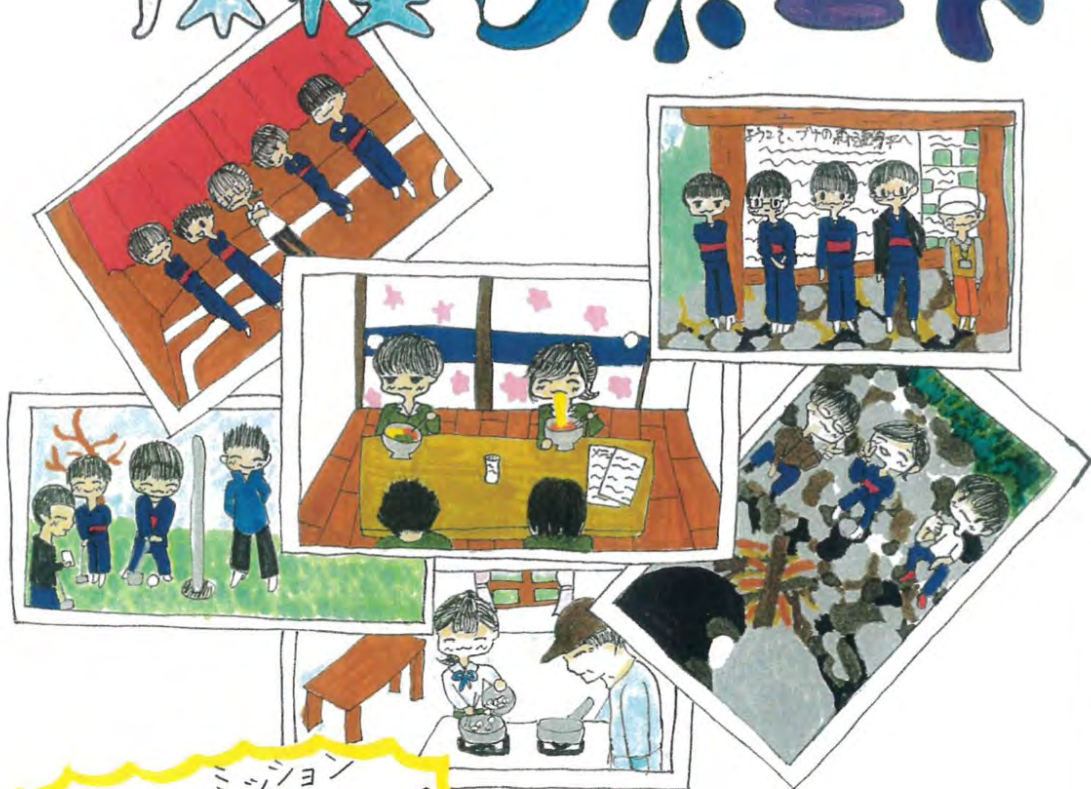
1. 期 日 令和元年11月21日(木)
2. 時 間 13:25～15:15(5・6校時)
3. 場 所 本校被服室
4. 出席者または参加者数等 1年生徒22名、教職員4名
5. 内 容 講師：大垣敬寛氏(株式会社山のむこう代表取締役／学習塾ESTEM塾長)
プレゼンテーション研修「相手に伝わる、聴き手の心を動かすプレゼント」
講義と5班に分かれてのグループワーク
6. 状況写真



2019, 10, 29

小国高等学校 1学年「白い森未来探究学」

おぐに町 探検しポート



ミッション
今回のMISSION!

グループにわかれて、小国町の行きたい
場所へ行き、会いたい人に会い、
地域の大人との対話や体験をする (^^)

フリーダム

横山 大太
佐野 天飛
鈴木 蒼生



森林セラピーでは、伊藤良一さんのガイドで、
てい橋周辺を散策しました。てい橋から見る川
の眺めは最高でした。それに、紅葉もきれいでした。他
には、天然記念物のモリアオガエルが生息する池もあり、
とてもきれいな場所でした。



パークゴルフでは、会長の渡部茂さんが一緒に回って下さいました。
パークゴルフというスポーツは、北海道発祥のスポーツで子供から高齢者
までが楽しめるスポーツということが分かりました。



1-2

普段行かない場所へ行き、更に小国町の良さを知ろう！

焼き芋探検隊

メンバー
高橋 亜佑那
佐藤 優
田中 陸翔

森林セラピー

(伊藤 良一さん)

始めに僕たちは森林セラピーを行く前に、温身平へ向かいました。時季的にももみじや紅葉がとてきれいで、自然にふれながら歩くと気持ち良かったです。

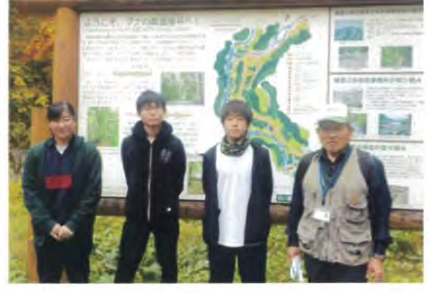
また、温身平周辺にある天狗橋から見える川の水は、とても透明で木の葉が反射しエメラルドグリーンに輝いていました。とても絶景なので皆さんもぜひ見てください。

マタギの館

(栗本 美紀さん)

森林セラピーを終え、僕たちはマタギの館というお店に向かいました。このお店を訪ねた理由は、事前学習の際に、マタギの館のツツルは絶品だと言っていたので、遠藤さんに教えていただいたからです。

また、二階にはマタギについての展示品があり、小国町についての学習にもなると思ったからです。実際に行ってみると、熊の毛やクマの足跡などの展示品があり、とても興味深いものでした。他にも山菜そばなどがあり、また行きたいなと思いました。



焼き芋・焼きしいたけ作り

(横山 真一さん)

僕たちがこの探検で一番楽しみにしていた焼き芋は、天候が心配でしたが無事行うことができました。皆、野外で焼き芋をするのは初めてでしたが、指導してくださった横山さんのおかげで作り切る事ができました。

焼き芋をつくるみる、やはり焼き芋がやわらかく美味しい状態を食べるには充分な時間が必要だ、と分かりました。僕たちは上手い具合に作れていたのですが、中々あたたまらずに結局時間が足りず、少し固くなってしまいました。またつくる機会があればリベンジしたいです。ごまいもをわけてくださった永井博嘉さん、ありがとうございました。



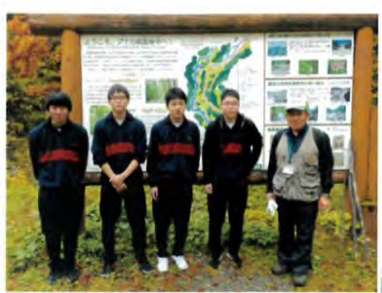
フジライ班の
ぶらぶらひまひま
やまあるき

優輝
元輝
豊翔
颯斗

フジライ班は木林セラピーと齋藤

弥輔さんのお家と小国町資料館に行きました。

木林セラピーでは、伊藤良一さんのガイドで森林の中を歩いて、木林の良さを感じることができました。森林の中をたくさん歩いて、バガ癒された気がしました。紅葉もきれいでした。



齋藤弥輔さんの家では、工房や木

材で作った自慢の作品をみせていただきました。

ハチの駆除のときの服を着させていただけ

きました。自分で作りたいものを考えて

一から自分で作っているのは

すごいことだと思いました。

また、小国町には、色々な

分野で活躍されている人が

いるんだと思いました。



小国町資料館では、鶴岡から来ていた

いた、佐藤泰史さんにくワガタのお話をお聞き

したり、蝶の標本を見せていただきました。

「コーディネートしてくれた

草刈広一さん、教育委員

会の蛸原さん、ありがとう

ございました。



食 「本格的な料理を 作りたい」

金悠翔 齋藤愛花
大石蓮 今野優希

【白い森のくまさん】

私達は道の駅にある白い森のくまさんに
行ってきました。そこで私達は駅長である
竹内健太さんにお話をお聞きしました。
様々な質問をした中で、特に印象に
残ったのは古くから生活でどんなことを頑張
っているかという質問に対しての「勉強
することも大切だけれども、人なづかいをして、大
人らしい喋り方で外の世界を知りたい」とい
う言葉です。自分たちの視野を広げ
て、たくましく生きていくことに挑戦するきっかけになり
ました。



【おぐに地鶏フーズ】

調理実習で親子丼に使う肉を買う
ために、小坂町にあるおぐに地鶏フーズ
に行き、佐藤和美さんにたくさんのお話
をお聞きしました。また、様々な
お鶏の加工品を試食させていた
だき、どれもおいしくて、くせになる味
でびっくりしました。午後からは学
校に戻り、和美さんと地鶏の親子
丼とからあげを作りました。



【地鶏生産者の佐藤和美さんとワギング!!】

まず、一品目に親子丼を作りました。和美さんに肉の
切り方を教えていただきましたながら、楽しく作りました。
二品目には、からあげを作りました。からあげは当
初のメニューには無かったのですが、和美さんのご厚意
でいただいたので、みんなで話し合った結果、からあげを
作ることにしました。からあげを
作るのが初めてでしたが、意外と
簡単に作れて、とてもおいしくでき
たので驚きました。

三品目に秋の旬の食材である
さつまいもを使って、スイートポテト
を作りました。とてもおいしくでき
たのでよかったです。

小国町で作られたものだけで作
った料理はどれもびっくりするほどお
いしくて、またみんなで作りたい
なと思いました。



小国食文化

ワクワク探検

食いしん坊 刊王



福龍軒

お昼は、福龍軒に行った。地鶏ラーメンが美味しかった。小国産の地鶏が美味しいです。じじいも美味しい。



旬彩工房

山ロひとみさん

ここでは、たのきみのパン、ワッギー、グリニニ、つばぽんなど作られている。最初には作られたのは、おせんべいだそう。ハッパニにも工夫がされている!! 山ロさんも、パンも作っている人達も、みんな優しく接してくれて嬉しい。



しばた屋

此木田 伸也さん

ここでは、本音で話して工夫された、キーやワッギーがあり、とても美味しそうだった。柴田さんも、自分から笑顔で話しかけた。また来てほしいな。と聞いてもらえそうに、パンやケーキをエスプレッソでつくって、おしゃべりしてくれよう。頼まれた給をキーの上に書いてもらうので、ぜひ注文して食べたいですね!!



道の駅

竹内健太さん

道の駅で最近新しくできた、白い木のくまさん。最初には、茶屋にあって、おしゃべりをする。大きく拡大したそう。昔、あった場所には、何も使ってはいなかったが、今は、もっとおしゃべりするように工夫している。新しく開かれたお店では、白いゆらぎもちが人気なので、買っていく。新しい。



ほたる

渡部孝一さん

一般のお店のゆらぎもちはおかしい。ほたるのゆらぎもちは、温かい。また、ほたるもちで、ゆらぎもちの時は、温かい。他にも、小国産ゆらぎもち100%で作っている。ゆらぎもち以外にも、パンやケーキ、おしゃべりをする。ぜひ、注文して食べたいですね。



3. 生徒の自己能力認識

	全校										1 年生 (2019入学生)				2 年生 (2018入学生)				3 年生 (2017入学生)			
	全体 割合 (%)	昨年度比 差 (pt)	学年間の進歩 増本差 (pt)	地域中心の進歩 差 (pt)	全体 平均	学年 割合 (%)	18 入学生比		学年 平均値	学年 割合 (%)	1 年次比		学年 平均値	学年 割合 (%)	2 年次比		学年 平均値	学年 割合 (%)	1 年次比		学年 平均値	学年 割合 (%)
							差 (pt)	量 (pt)			差 (pt)	量 (pt)			差 (pt)	量 (pt)			差 (pt)	量 (pt)		
主 体 性	57.0%	-	29.82	-5.92	2.67	2.58	45.5%	-	2.52	74.0%	-	3.02	46.5%	-	2.98	40.0%	-	2.47	-	-	-	2.34
【自己肯定感・自己有用感】	52.8%	-	32.92	-4.27	2.58	45.5%	-	2.41	72.9%	-	2.98	40.0%	-	2.98	40.0%	-	2.48	-	-	-	2.48	
自分にはよいところがあると思う	60.6%	-	31.17	-7.88	2.75	54.5%	-	2.55	79.2%	-	3.21	48.0%	-	3.21	48.0%	-	2.20	-	-	-	2.20	
私は、自分自身に満足している	45.1%	-	34.67	-0.66	2.41	36.4%	-	2.27	66.7%	-	2.75	32.0%	-	2.75	32.0%	-	2.36	-	-	-	2.36	
【課題設定能力】	46.5%	-	38.83	-17.93	2.59	36.4%	-	2.36	70.8%	-	3.04	32.0%	-	3.04	32.0%	-	2.44	-	-	-	2.44	
現状分析し、目的や問題を明らかにすることができる	46.5%	-	38.83	-17.93	2.59	36.4%	-	2.36	70.8%	-	3.04	32.0%	-	3.04	32.0%	-	2.48	-	-	-	2.48	
【行動力】	57.7%	-	23.75	-0.16	2.66	59.1%	-	2.64	68.8%	-	2.92	46.0%	-	2.92	46.0%	-	2.40	-	-	-	2.40	
目標を設定し、進捗に行動することができる	56.3%	-	16.67	-0.83	2.62	50.0%	-	2.50	66.7%	-	2.88	52.0%	-	2.88	52.0%	-	2.72	-	-	-	2.72	
自分で計画を立てて活動することができる	59.2%	-	30.83	0.51	2.70	68.2%	-	2.77	70.8%	-	3.15	68.0%	-	3.15	68.0%	-	2.84	-	-	-	2.84	
【粘り強さ】	71.1%	-	23.79	-1.33	2.85	61.4%	-	2.68	83.3%	-	3.13	76.0%	-	3.13	76.0%	-	2.60	-	-	-	2.60	
うまくいかずかならないことにも意欲的に取り組む	71.8%	-	20.08	-4.31	2.87	59.1%	-	2.64	79.2%	-	3.17	60.0%	-	3.17	60.0%	-	2.63	-	-	-	2.63	
忍耐強く物事に取組むことができる	70.4%	-	27.50	1.65	2.83	63.6%	-	2.73	87.5%	-	3.30	62.0%	-	3.30	62.0%	-	2.88	-	-	-	2.88	
協働性	-	-	32.32	-2.64	2.89	64.2%	-	2.75	88.0%	-	3.46	72.0%	-	3.46	72.0%	-	2.80	-	-	-	2.80	
【受容力】	83.1%	-	36.36	-4.65	3.10	63.6%	-	2.82	100.0%	-	3.58	84.0%	-	3.58	84.0%	-	2.46	-	-	-	2.46	
自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	83.1%	-	36.36	-4.65	3.10	63.6%	-	2.82	100.0%	-	3.58	84.0%	-	3.58	84.0%	-	2.56	-	-	-	2.56	
【対話力】	83.1%	-	23.83	-2.31	3.08	81.8%	-	3.00	95.8%	-	3.46	72.0%	-	3.46	72.0%	-	2.36	-	-	-	2.36	
相手の意見を丁寧に聞くことができる	83.1%	-	23.83	-2.31	3.08	81.8%	-	3.00	95.8%	-	3.46	72.0%	-	3.46	72.0%	-	2.36	-	-	-	2.36	
【表現力】	57.7%	-	38.07	-0.03	2.65	43.2%	-	2.36	81.3%	-	3.10	48.0%	-	3.10	48.0%	-	2.40	-	-	-	2.40	
自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	60.6%	-	37.88	-3.50	2.77	45.5%	-	2.45	83.3%	-	3.29	52.0%	-	3.29	52.0%	-	2.36	-	-	-	2.36	
友達の前で自分の意見を発表することができる	54.9%	-	38.26	3.45	2.52	40.9%	-	2.27	79.2%	-	2.92	44.0%	-	2.92	44.0%	-	2.36	-	-	-	2.36	
【共創力】	62.0%	-	31.00	-3.59	2.73	68.2%	-	2.82	75.0%	-	3.04	44.0%	-	3.04	44.0%	-	2.36	-	-	-	2.36	
共同作業だ、自分の力が発揮できる	62.0%	-	31.00	-3.59	2.73	68.2%	-	2.82	75.0%	-	3.04	44.0%	-	3.04	44.0%	-	2.36	-	-	-	2.36	
探究性	54.3%	-	37.53	-4.99	2.59	51.3%	-	2.44	74.1%	-	2.98	37.8%	-	2.98	37.8%	-	2.64	-	-	-	2.64	
【学びの意欲】	65.7%	-	22.08	4.51	2.80	62.1%	-	2.65	77.8%	-	3.10	57.3%	-	3.10	57.3%	-	2.72	-	-	-	2.72	
家や寮で、誰かに言わなくても自分から勉強する	64.8%	-	11.74	3.95	2.75	59.1%	-	2.55	70.8%	-	2.96	64.0%	-	2.96	64.0%	-	2.32	-	-	-	2.32	
地域を対象としたPBLに熱心に取り組んでいる	57.7%	-	39.17	10.46	2.62	54.5%	-	2.55	79.2%	-	3.00	40.0%	-	3.00	40.0%	-	2.88	-	-	-	2.88	
学習を通して、自分がしたいことが揃っている	74.6%	-	15.33	-0.89	3.03	72.7%	-	2.86	83.3%	-	3.33	68.0%	-	3.33	68.0%	-	2.52	-	-	-	2.52	
【情報活用能力】	62.7%	-	46.86	-3.07	2.69	52.3%	-	2.36	89.6%	-	3.17	46.0%	-	3.17	46.0%	-	1.88	-	-	-	1.88	
情報を、勉強したこと関連だけで理解できる	62.0%	-	47.50	-10.22	2.77	59.1%	-	2.59	87.5%	-	3.21	40.0%	-	3.21	40.0%	-	2.40	-	-	-	2.40	
勉強したものを実務に応用している	63.4%	-	46.21	4.08	2.61	45.5%	-	2.14	91.7%	-	3.13	52.0%	-	3.13	52.0%	-	2.40	-	-	-	2.40	
【批判的思考力】	28.2%	-	42.00	-12.71	2.20	27.3%	-	2.14	50.0%	-	2.58	8.0%	-	2.58	8.0%	-	2.40	-	-	-	2.40	
複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	60.6%	-	39.17	-8.67	2.69	63.6%	-	2.59	79.2%	-	3.08	40.0%	-	3.08	40.0%	-	2.40	-	-	-	2.40	
自分を客観的に理解することができる	60.6%	-	39.17	-8.67	2.69	63.6%	-	2.59	79.2%	-	3.08	40.0%	-	3.08	40.0%	-	2.40	-	-	-	2.40	
社会性	62.4%	-	26.08	3.63	2.75	59.7%	-	2.66	76.0%	-	3.04	51.7%	-	3.04	51.7%	-	2.54	-	-	-	2.54	
【地域貢献意識】	64.3%	-	35.33	10.43	2.72	62.1%	-	2.70	83.3%	-	3.03	48.0%	-	3.03	48.0%	-	2.45	-	-	-	2.45	
国や地域に抱いた手として、政策決定に関わりたい	45.1%	-	34.50	4.81	2.37	45.5%	-	2.36	62.5%	-	2.63	28.0%	-	2.63	28.0%	-	2.12	-	-	-	2.12	
地域をよりよすため、地域の課題に寄り添りたい	73.2%	-	35.83	16.58	2.89	63.6%	-	2.73	95.8%	-	3.29	60.0%	-	3.29	60.0%	-	2.64	-	-	-	2.64	
将来、自分の住んでいる地域で夜に立ちたい	74.6%	-	35.67	9.89	2.92	77.3%	-	3.00	91.7%	-	3.17	56.0%	-	3.17	56.0%	-	2.60	-	-	-	2.60	
【社会参画意識】	63.4%	-	25.24	2.02	2.84	63.6%	-	2.74	75.0%	-	3.17	52.0%	-	3.17	52.0%	-	2.08	-	-	-	2.08	
私が関わることで、社会状況が変えられると思う	38.0%	-	26.00	-4.15	2.34	40.9%	-	2.27	50.0%	-	2.67	24.0%	-	2.67	24.0%	-	2.08	-	-	-	2.08	
地域や社会での課題やできごとに関心がある	67.6%	-	35.33	2.09	2.83	72.7%	-	2.77	83.3%	-	3.21	48.0%	-	3.21	48.0%	-	2.52	-	-	-	2.52	
18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	84.5%	-	14.39	8.12	3.34	77.3%	-	3.18	91.7%	-	3.63	84.0%	-	3.63	84.0%	-	3.20	-	-	-	3.20	
【グローバル意識】	59.2%	-	24.73	1.38	2.70	56.1%	-	2.62	70.8%	-	3.00	50.7%	-	3.00	50.7%	-	2.49	-	-	-	2.49	
地域の課題、世界での課題は関連していると思う	52.1%	-	29.92	-8.79	2.48	40.9%	-	2.23	70.8%	-	2.83	44.0%	-	2.83	44.0%	-	2.36	-	-	-	2.36	
将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	67.6%	-	20.08	0.64	2.94	59.1%	-	2.82	79.2%	-	3.25	64.0%	-	3.25	64.0%	-	2.76	-	-	-	2.76	
将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	57.7%	-	24.18	12.29	2.69	68.2%	-	2.82	62.5%	-	2.92	44.0%	-	2.92	44.0%	-	2.36	-	-	-	2.36	
【持続可能性意識】	62.7%	-	19.00	0.70	2.72	56.8%	-	2.57	75.0%	-	2.98	56.0%	-	2.98	56.0%	-	2.60	-	-	-	2.60	
地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	54.9%	-	31.00	1.30	2.58	45.5%	-	2.41	75.0%	-	2.92	44.0%	-	2.92	44.0%	-	2.40	-	-	-	2.40	
自分の将来について明るい希望を持っている	70.4%	-	7.00	0.11	2.86	68.2%	-	2.73	75.0%	-	3.04	68.0%	-	3.04	68.0%	-	2.80	-	-	-	2.80	

とく 永久の小国

×バリー
和留一誠
伊藤輝海
代場重美
後藤孝政

イラストレーター

一人目 吉田真理さん

埼玉県出身

東化芸術工科大学を卒業。

現在は旧小玉川小中学校で
地域の方々と交流を深める為
小国短期留学という企画を行
う活動されております。



おぐに地鶏フーズ

二人目 佐藤和美さん

元は米農家をやっており、ハウス
を解体するだけではもったいないと
うことで地鶏を育ててみたいかと
れたのがきっかけだそう。保管所
がなかったら、その後、公社を立ち
上げた。
今や、「やまがた地鶏」として多く
の人々に愛されております。

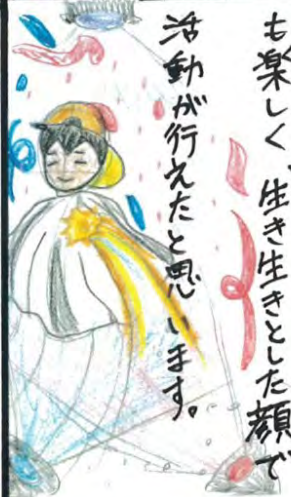


三人目 スポーツUIダンサー 藤田明美さん

元ダンサー 現在は、ダンスクラブの指導者
として子どもたちにダンスの楽しさ
を教えている。

実際、体験してみたところとて
も楽しく、生き生きとした顔で

活動が行えたと思います。



四人目 古田歌舞伎 (金目そば)

木村公弘さん

江戸時代の末期、嘉永、安政の
ころから昭和六十一年まで、ま
まな苦悩を乗り越え、「古田歌舞伎
と名乗る保存会の結成や町指定無形
文化財の指定(平成四)を経て、現在
も多くの方々の協力を得て公演
を行っております。





小国高校
公式キャラ
おぐまん♡

Special
Thanks♡

to

ご協力してくださった
すべてのみなさん

ありがとうございました



小さな学校で大きな夢を描く

私たちは、他にもさまざまな学びを楽しんでいます！たくさんありすぎるので、ぜひ下記の会を見に来て、知ってください。おもしろい発見があるかも！？

発行：小国高校 1学年

★小国高校 学校祭：12/14(土)

(in 小国高校体育館)

11:00～14:50 一般公開

「白い森未来探究学」とは、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（文部科学省）」指定校として取り組んでいる「地域とともに実践的な活動を探究する学び」です。

12 「高校魅力化評価システム_v2.0」診断結果チェックシート

「高校魅力化評価システム_v2.0」診断結果チェックシート

★総括表

高校名	山形県立小国高等学校	類型	指定校・アソシエイト	年度	2019年度
全校	71	SS	1年生	22	SS
			2年生	24	SS
			3年生	25	SS
			大人	37	SS
			95		SS
			17		SS

【チェックシートの基本的な読み取り方】このチェックシートでは、以下の5側面、4領域、3軸により、学校と地域での学びの状況を調べることを意図しています。

- 5つの側面を：各校の（地域を含めた）学習環境や生徒の意識等を「1. 学習活動の機会」「2. 地域の学習環境」「3. 生徒の自己能力認識」「4. 生徒の行動規範」「5. 満足度」の5つの側面から把握しています。1枚目5つの側面の詳細結果を表示しています。
- 4つの領域から：5つの側面について、各側面での集計に加え、各側面での結果（構成する側面の結果の単純平均）も示しています。
- 3つの軸で：上記のデータを「時間軸（通年度からの伸び）」、「学年軸（各学年による伸び）」、「地域軸（他地域との比較）」の3つの軸で整理しており、これらの結果から各校・各地域の特徴（強み・弱み、伸びている点やその要因等）を読み取り、今後のカリキュラム設計等に活用していただくことを願っています。
- なお、それぞれの結果は基本的に、【割合(%)】（各項目で「4. あてはまる割合」）、【割合(%)】（比較対象間の割合の差）、【平均】（1. あてはまる割合）、「4. あてはまる割合」の回答の平均値）を用いて整理しています。

1 生徒の学習活動の機会 ○授業、総合的な探究、学校設定科目等における学習活動の機会の把握 ○なお、高校1年生は中学校時代の学習活動の機会を回答 【全体傾向】 【特徴的な回答結果】 <table> <tr> <th>分類</th><th>特徴</th><th>割合</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>昨年度に比べて</td><td>低下</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>1年生</td><td>高い</td><td>86.4%</td><td>活動、学習内容について生徒同士で話し合う</td></tr> <tr> <td>2・3年生</td><td>低い</td><td>31.8%</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> <tr> <td>地域に比べて</td><td>低い</td><td>98.0%</td><td>グループで協力しながら学習や調べものを行う</td></tr> <tr> <td>地域に比べて</td><td>低い</td><td>42.9%</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> <tr> <td>地域に比べて</td><td>高い</td><td>41.0pt</td><td>学校外の人や知らない人と話をする</td></tr> <tr> <td>地域に比べて</td><td>低い</td><td>3.3pt</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> </table>	分類	特徴	割合	説明	昨年度に比べて	低下	-	-	1年生	高い	86.4%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う	2・3年生	低い	31.8%	日本や世界の課題の解決方法について考える	地域に比べて	低い	98.0%	グループで協力しながら学習や調べものを行う	地域に比べて	低い	42.9%	日本や世界の課題の解決方法について考える	地域に比べて	高い	41.0pt	学校外の人や知らない人と話をする	地域に比べて	低い	3.3pt	日本や世界の課題の解決方法について考える	2 地域の学習環境 ○学校や地域の学習環境として雰囲気、存在、機会の高さを把握 ○生徒による認識の高さと、地域の大人たちの自己認識の差（スレ）の大きい項目を表記 【全体傾向】 【特徴的な回答結果】 <table> <tr> <th>分類</th><th>差</th><th>割合</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>能力差</td><td>生徒高</td><td>32.8pt</td><td>お互いに問いかけあう機会がある</td></tr> <tr> <td></td><td>大人高</td><td>8.6pt</td><td>ありのままの自分が尊重される雰囲気がある</td></tr> <tr> <td>生徒</td><td>高い</td><td>90.1%</td><td>挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある</td></tr> <tr> <td>大人</td><td>低い</td><td>59.2%</td><td>地域に、尊敬している、憧れている大人がいる</td></tr> <tr> <td>大人</td><td>高い</td><td>78.4%</td><td>地域から大切にされている雰囲気を感じる</td></tr> <tr> <td></td><td>低い</td><td>37.8%</td><td>本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある</td></tr> <tr> <td>他地域に比べて</td><td>高い</td><td>22.3pt</td><td>地域の人や課題などについて触れる機会がある</td></tr> <tr> <td>他地域に比べて</td><td>低い</td><td>-15.0pt</td><td>本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある</td></tr> </table>	分類	差	割合	説明	能力差	生徒高	32.8pt	お互いに問いかけあう機会がある		大人高	8.6pt	ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	生徒	高い	90.1%	挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	大人	低い	59.2%	地域に、尊敬している、憧れている大人がいる	大人	高い	78.4%	地域から大切にされている雰囲気を感じる		低い	37.8%	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	他地域に比べて	高い	22.3pt	地域の人や課題などについて触れる機会がある	他地域に比べて	低い	-15.0pt	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	4 生徒の行動実績 ○ここ最近（1ヶ月以内）の行動経験の頻度 【全体傾向】 【特徴的な回答結果】 <table> <tr> <th>分類</th><th>特徴</th><th>割合</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>昨年度に比べて</td><td>上昇</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>1年生</td><td>低い</td><td>81.8%</td><td>授業で分かったこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと</td></tr> <tr> <td>2・3年生</td><td>高い</td><td>40.9%</td><td>授業で分かったこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと</td></tr> <tr> <td>2・3年生</td><td>高い</td><td>75.5%</td><td>授業で分かったこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと</td></tr> <tr> <td>他地域に比べて</td><td>低い</td><td>46.9%</td><td>授業で分かったこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと</td></tr> <tr> <td>他地域に比べて</td><td>高い</td><td>9.7pt</td><td>先生、保護者以外の地域の人と、おなげい会話をした</td></tr> <tr> <td>他地域に比べて</td><td>低い</td><td>-6.3pt</td><td>友人などから、意見やアドバイスを求めた</td></tr> </table>	分類	特徴	割合	説明	昨年度に比べて	上昇	-	-	1年生	低い	81.8%	授業で分かったこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと	2・3年生	高い	40.9%	授業で分かったこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと	2・3年生	高い	75.5%	授業で分かったこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと	他地域に比べて	低い	46.9%	授業で分かったこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと	他地域に比べて	高い	9.7pt	先生、保護者以外の地域の人と、おなげい会話をした	他地域に比べて	低い	-6.3pt	友人などから、意見やアドバイスを求めた	5 満足度 ○今の生活全般に対する満足度（11段階 6以上） 【全体傾向】 【特徴的な回答結果】 <table> <tr> <th>分類</th><th>特徴</th><th>割合</th></tr> <tr> <td>昨年度に比べて</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>1年生</td><td>高い</td><td>7.95</td></tr> <tr> <td>2・3年生</td><td>低い</td><td>-4.12</td></tr> <tr> <td>他地域に比べて</td><td>低い</td><td>-4.12</td></tr> <tr> <td>本校に入ってから</td><td>良かったと思う</td><td>88.7%</td></tr> <tr> <td>昨年度に比べて</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>1年生</td><td>高い</td><td>11.83</td></tr> <tr> <td>2・3年生</td><td>低い</td><td>6.79</td></tr> <tr> <td>他地域に比べて</td><td>低い</td><td>6.79</td></tr> </table>	分類	特徴	割合	昨年度に比べて	-	-	1年生	高い	7.95	2・3年生	低い	-4.12	他地域に比べて	低い	-4.12	本校に入ってから	良かったと思う	88.7%	昨年度に比べて	-	-	1年生	高い	11.83	2・3年生	低い	6.79	他地域に比べて	低い	6.79
分類	特徴	割合	説明																																																																																																																																		
昨年度に比べて	低下	-	-																																																																																																																																		
1年生	高い	86.4%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う																																																																																																																																		
2・3年生	低い	31.8%	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																		
地域に比べて	低い	98.0%	グループで協力しながら学習や調べものを行う																																																																																																																																		
地域に比べて	低い	42.9%	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																		
地域に比べて	高い	41.0pt	学校外の人や知らない人と話をする																																																																																																																																		
地域に比べて	低い	3.3pt	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																		
分類	差	割合	説明																																																																																																																																		
能力差	生徒高	32.8pt	お互いに問いかけあう機会がある																																																																																																																																		
	大人高	8.6pt	ありのままの自分が尊重される雰囲気がある																																																																																																																																		
生徒	高い	90.1%	挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある																																																																																																																																		
大人	低い	59.2%	地域に、尊敬している、憧れている大人がいる																																																																																																																																		
大人	高い	78.4%	地域から大切にされている雰囲気を感じる																																																																																																																																		
	低い	37.8%	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある																																																																																																																																		
他地域に比べて	高い	22.3pt	地域の人や課題などについて触れる機会がある																																																																																																																																		
他地域に比べて	低い	-15.0pt	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある																																																																																																																																		
分類	特徴	割合	説明																																																																																																																																		
昨年度に比べて	上昇	-	-																																																																																																																																		
1年生	低い	81.8%	授業で分かったこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと																																																																																																																																		
2・3年生	高い	40.9%	授業で分かったこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと																																																																																																																																		
2・3年生	高い	75.5%	授業で分かったこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと																																																																																																																																		
他地域に比べて	低い	46.9%	授業で分かったこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと、自分から聞いたこと																																																																																																																																		
他地域に比べて	高い	9.7pt	先生、保護者以外の地域の人と、おなげい会話をした																																																																																																																																		
他地域に比べて	低い	-6.3pt	友人などから、意見やアドバイスを求めた																																																																																																																																		
分類	特徴	割合																																																																																																																																			
昨年度に比べて	-	-																																																																																																																																			
1年生	高い	7.95																																																																																																																																			
2・3年生	低い	-4.12																																																																																																																																			
他地域に比べて	低い	-4.12																																																																																																																																			
本校に入ってから	良かったと思う	88.7%																																																																																																																																			
昨年度に比べて	-	-																																																																																																																																			
1年生	高い	11.83																																																																																																																																			
2・3年生	低い	6.79																																																																																																																																			
他地域に比べて	低い	6.79																																																																																																																																			

3 生徒の自己能力認識

○ 学びの意識としての生徒の自己認識を、特徴的な回答結果には、「学年による差」、「昨年度との差」、「他地域との差」において特徴的な傾向がみられた回答を表示。

● 主体性 自ら課題を設定し、意図をもって（他が強く）挑戦・行動する姿勢

● 協働性 多様な人と協働し、新たな価値の創造に向かう姿勢

● 探究性 未来（よりよい社会）づくりに向け、さらに学び・成長しようとする姿勢

● 社会性 地域や社会の課題を自分事としてとらえ、積極的に貢献しようとする姿勢

【特徴的な回答結果】	【特徴的な回答結果】	【特徴的な回答結果】	【特徴的な回答結果】	【特徴的な回答結果】																																																																																																																																																																
【主体性】 【特徴的な回答結果】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th><th>特徴</th><th>割合</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昨年度に比べて</td><td>減少</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>1年生</td><td>高い</td><td>86.4%</td><td>活動、学習内容について生徒同士で話し合う</td></tr> <tr> <td>2・3年生</td><td>低い</td><td>31.8%</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> <tr> <td>地域に比べて</td><td>低い</td><td>98.0%</td><td>グループで協働しながら学習や調べものを行う</td></tr> <tr> <td></td><td>低い</td><td>42.9%</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> <tr> <td></td><td>高い</td><td>41.0pt</td><td>学校外の人や知らない人に出会った経験について考える</td></tr> <tr> <td></td><td>低い</td><td>3.3pt</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> </tbody> </table>	分類	特徴	割合	説明	昨年度に比べて	減少	-	-	1年生	高い	86.4%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う	2・3年生	低い	31.8%	日本や世界の課題の解決方法について考える	地域に比べて	低い	98.0%	グループで協働しながら学習や調べものを行う		低い	42.9%	日本や世界の課題の解決方法について考える		高い	41.0pt	学校外の人や知らない人に出会った経験について考える		低い	3.3pt	日本や世界の課題の解決方法について考える	【協働性】 【特徴的な回答結果】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th><th>特徴</th><th>割合</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昨年度に比べて</td><td>減少</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>1年生</td><td>高い</td><td>86.4%</td><td>活動、学習内容について生徒同士で話し合う</td></tr> <tr> <td>2・3年生</td><td>低い</td><td>31.8%</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> <tr> <td>地域に比べて</td><td>低い</td><td>98.0%</td><td>グループで協働しながら学習や調べものを行う</td></tr> <tr> <td></td><td>低い</td><td>42.9%</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> <tr> <td></td><td>高い</td><td>41.0pt</td><td>学校外の人や知らない人に出会った経験について考える</td></tr> <tr> <td></td><td>低い</td><td>3.3pt</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> </tbody> </table>	分類	特徴	割合	説明	昨年度に比べて	減少	-	-	1年生	高い	86.4%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う	2・3年生	低い	31.8%	日本や世界の課題の解決方法について考える	地域に比べて	低い	98.0%	グループで協働しながら学習や調べものを行う		低い	42.9%	日本や世界の課題の解決方法について考える		高い	41.0pt	学校外の人や知らない人に出会った経験について考える		低い	3.3pt	日本や世界の課題の解決方法について考える	【探究性】 【特徴的な回答結果】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th><th>特徴</th><th>割合</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昨年度に比べて</td><td>減少</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>1年生</td><td>高い</td><td>86.4%</td><td>活動、学習内容について生徒同士で話し合う</td></tr> <tr> <td>2・3年生</td><td>低い</td><td>31.8%</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> <tr> <td>地域に比べて</td><td>低い</td><td>98.0%</td><td>グループで協働しながら学習や調べものを行う</td></tr> <tr> <td></td><td>低い</td><td>42.9%</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> <tr> <td></td><td>高い</td><td>41.0pt</td><td>学校外の人や知らない人に出会った経験について考える</td></tr> <tr> <td></td><td>低い</td><td>3.3pt</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> </tbody> </table>	分類	特徴	割合	説明	昨年度に比べて	減少	-	-	1年生	高い	86.4%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う	2・3年生	低い	31.8%	日本や世界の課題の解決方法について考える	地域に比べて	低い	98.0%	グループで協働しながら学習や調べものを行う		低い	42.9%	日本や世界の課題の解決方法について考える		高い	41.0pt	学校外の人や知らない人に出会った経験について考える		低い	3.3pt	日本や世界の課題の解決方法について考える	【社会性】 【特徴的な回答結果】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th><th>特徴</th><th>割合</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昨年度に比べて</td><td>減少</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>1年生</td><td>高い</td><td>86.4%</td><td>活動、学習内容について生徒同士で話し合う</td></tr> <tr> <td>2・3年生</td><td>低い</td><td>31.8%</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> <tr> <td>地域に比べて</td><td>低い</td><td>98.0%</td><td>グループで協働しながら学習や調べものを行う</td></tr> <tr> <td></td><td>低い</td><td>42.9%</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> <tr> <td></td><td>高い</td><td>41.0pt</td><td>学校外の人や知らない人に出会った経験について考える</td></tr> <tr> <td></td><td>低い</td><td>3.3pt</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> </tbody> </table>	分類	特徴	割合	説明	昨年度に比べて	減少	-	-	1年生	高い	86.4%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う	2・3年生	低い	31.8%	日本や世界の課題の解決方法について考える	地域に比べて	低い	98.0%	グループで協働しながら学習や調べものを行う		低い	42.9%	日本や世界の課題の解決方法について考える		高い	41.0pt	学校外の人や知らない人に出会った経験について考える		低い	3.3pt	日本や世界の課題の解決方法について考える	【満足度】 【特徴的な回答結果】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th><th>特徴</th><th>割合</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昨年度に比べて</td><td>減少</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>1年生</td><td>高い</td><td>86.4%</td><td>活動、学習内容について生徒同士で話し合う</td></tr> <tr> <td>2・3年生</td><td>低い</td><td>31.8%</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> <tr> <td>地域に比べて</td><td>低い</td><td>98.0%</td><td>グループで協働しながら学習や調べものを行う</td></tr> <tr> <td></td><td>低い</td><td>42.9%</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> <tr> <td></td><td>高い</td><td>41.0pt</td><td>学校外の人や知らない人に出会った経験について考える</td></tr> <tr> <td></td><td>低い</td><td>3.3pt</td><td>日本や世界の課題の解決方法について考える</td></tr> </tbody> </table>	分類	特徴	割合	説明	昨年度に比べて	減少	-	-	1年生	高い	86.4%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う	2・3年生	低い	31.8%	日本や世界の課題の解決方法について考える	地域に比べて	低い	98.0%	グループで協働しながら学習や調べものを行う		低い	42.9%	日本や世界の課題の解決方法について考える		高い	41.0pt	学校外の人や知らない人に出会った経験について考える		低い	3.3pt	日本や世界の課題の解決方法について考える
分類	特徴	割合	説明																																																																																																																																																																	
昨年度に比べて	減少	-	-																																																																																																																																																																	
1年生	高い	86.4%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う																																																																																																																																																																	
2・3年生	低い	31.8%	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
地域に比べて	低い	98.0%	グループで協働しながら学習や調べものを行う																																																																																																																																																																	
	低い	42.9%	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
	高い	41.0pt	学校外の人や知らない人に出会った経験について考える																																																																																																																																																																	
	低い	3.3pt	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
分類	特徴	割合	説明																																																																																																																																																																	
昨年度に比べて	減少	-	-																																																																																																																																																																	
1年生	高い	86.4%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う																																																																																																																																																																	
2・3年生	低い	31.8%	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
地域に比べて	低い	98.0%	グループで協働しながら学習や調べものを行う																																																																																																																																																																	
	低い	42.9%	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
	高い	41.0pt	学校外の人や知らない人に出会った経験について考える																																																																																																																																																																	
	低い	3.3pt	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
分類	特徴	割合	説明																																																																																																																																																																	
昨年度に比べて	減少	-	-																																																																																																																																																																	
1年生	高い	86.4%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う																																																																																																																																																																	
2・3年生	低い	31.8%	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
地域に比べて	低い	98.0%	グループで協働しながら学習や調べものを行う																																																																																																																																																																	
	低い	42.9%	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
	高い	41.0pt	学校外の人や知らない人に出会った経験について考える																																																																																																																																																																	
	低い	3.3pt	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
分類	特徴	割合	説明																																																																																																																																																																	
昨年度に比べて	減少	-	-																																																																																																																																																																	
1年生	高い	86.4%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う																																																																																																																																																																	
2・3年生	低い	31.8%	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
地域に比べて	低い	98.0%	グループで協働しながら学習や調べものを行う																																																																																																																																																																	
	低い	42.9%	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
	高い	41.0pt	学校外の人や知らない人に出会った経験について考える																																																																																																																																																																	
	低い	3.3pt	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
分類	特徴	割合	説明																																																																																																																																																																	
昨年度に比べて	減少	-	-																																																																																																																																																																	
1年生	高い	86.4%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う																																																																																																																																																																	
2・3年生	低い	31.8%	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
地域に比べて	低い	98.0%	グループで協働しながら学習や調べものを行う																																																																																																																																																																	
	低い	42.9%	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	
	高い	41.0pt	学校外の人や知らない人に出会った経験について考える																																																																																																																																																																	
	低い	3.3pt	日本や世界の課題の解決方法について考える																																																																																																																																																																	

1. 生徒の学習活動の機会

	全校				1年生 (2019入学生)				2年生 (2018入学生)				3年生 (2017入学生)			
	全体	割合 (%)	学年別	他地域との差	平均	学年	割合 (%)	差 (pt)	学年	割合 (%)	差 (pt)	学年	割合 (%)	差 (pt)	学年	割合 (%)
主体性に係る機会																
自主的に調べものや取材を行う		73.5%	-	31.02	27.13	2.97	54.5%	-	2.50	81.3%	-	3.17	66.0%	-	2.77	
学校外のいろいろな人に話を聞きに行く		71.4%	-	31.50	13.23	2.90	63.6%	-	2.64	87.5%	-	3.13	56.0%	-	2.67	
		75.5%	-	30.55	41.02	3.04	45.5%	-	2.36	75.0%	-	3.21	76.0%	-	2.88	
協働性に係る機会		91.2%	-	27.78	21.13	3.37	66.7%	-	2.80	94.4%	-	3.61	88.0%	-	3.13	
グループで協力しながら学習や調べものを行う		98.0%	-	27.27	19.49	3.53	72.7%	-	2.95	100.0%	-	3.79	96.0%	-	3.28	
活動・学習内容について生徒同士で話し合う		93.9%	-	9.47	11.95	3.45	86.4%	-	3.05	95.8%	-	3.67	92.0%	-	3.24	
活動・学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う		81.6%	-	46.59	31.97	3.12	40.9%	-	2.41	87.5%	-	3.38	76.0%	-	2.88	
探究性に係る機会		73.5%	-	45.85	12.53	3.11	46.6%	-	2.40	91.7%	-	3.55	56.0%	-	2.67	
自分の考えを文章や図表にまとめる		75.5%	-	50.76	20.63	3.13	40.9%	-	2.36	91.7%	-	3.54	60.0%	-	2.71	
話し合った内容をまとめる		75.5%	-	50.38	6.86	3.14	45.5%	-	2.32	95.8%	-	3.58	56.0%	-	2.72	
活動・学習のまなめを発表する		69.4%	-	46.59	7.90	3.12	40.9%	-	2.32	87.5%	-	3.58	52.0%	-	2.68	
生徒同士で活動、学習の振り返りを行う		73.5%	-	35.67	14.74	3.04	59.1%	-	2.59	91.7%	-	3.50	56.0%	-	2.58	
社会性に係る機会		70.1%	-	26.26	26.45	2.88	51.5%	-	2.61	77.8%	-	3.19	62.7%	-	2.59	
地域の魅力や資源について考える		81.6%	-	23.48	36.69	3.20	68.2%	-	2.86	91.7%	-	3.63	72.0%	-	2.80	
地域の課題の解決方法について考える		85.7%	-	32.95	39.39	3.12	54.5%	-	2.64	87.5%	-	3.38	84.0%	-	2.88	
日本や世界の課題の解決方法について考える		42.9%	-	22.35	3.26	2.33	31.8%	-	2.32	54.2%	-	2.58	32.0%	-	2.08	

2. 地域の学習環境

	生徒の認識 (A)				大人の認識 (B)				大人の自己評価 (C)				生徒と大人の認識の差 (A-B)			
	生徒の認識 (A)				大人の認識 (B)				大人の自己評価 (C)				生徒と大人の認識の差 (A-B)			
	全体	割合 (%)	昨年度 差 (pt)	今年度 差 (pt)	全体	割合 (%)	昨年度 差 (pt)	今年度 差 (pt)	全体	割合 (%)	昨年度 差 (pt)	今年度 差 (pt)	全体	割合 (%)	昨年度 差 (pt)	今年度 差 (pt)
挑戦の連鎖を生む「安心・安全の土壌」	78.9%	-	6.66	3.05	64.3%	72.9%	-	2.77	78.9%	74.1%	-	3.10	18.5pt	-	-	-
	77.5%	-	4.04	3.00	59.5%	64.7%	-	2.69	73.0%	70.6%	-	2.97	18.0pt	-	-	-
	90.1%	-	2.48	3.34	70.3%	82.4%	-	2.86	89.2%	88.2%	-	3.39	19.9pt	-	-	-
	88.7%	-	12.39	3.20	70.3%	76.5%	-	2.86	89.2%	82.4%	-	3.22	18.5pt	-	-	-
	59.2%	-	5.65	2.66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	67.6%	-	9.33	2.87	48.6%	52.9%	-	2.57	59.5%	47.1%	-	2.75	19.0pt	-	-	-
	90.1%	-	6.06	3.23	73.0%	88.2%	-	2.89	83.8%	82.4%	-	3.17	17.2pt	-	-	-
協働を生む「多様性の土壌」	78.9%	-	5.47	3.06	59.5%	70.6%	-	2.73	82.4%	77.9%	-	3.22	19.4pt	-	-	-
	74.6%	-	3.09	2.94	56.8%	64.7%	-	2.66	83.8%	76.5%	-	3.25	17.9pt	-	-	-
	78.9%	-	3.11	3.00	70.3%	76.5%	-	2.78	78.4%	82.4%	-	3.11	8.6pt	-	-	-
	83.1%	-	3.81	3.23	54.1%	70.6%	-	2.71	83.8%	76.5%	-	3.19	29.0pt	-	-	-
	78.9%	-	11.88	3.06	56.8%	70.6%	-	2.77	83.8%	76.5%	-	3.33	22.1pt	-	-	-
開う・開われる「対話の土壌」	76.4%	-	-0.20	3.07	53.4%	61.8%	-	2.61	65.5%	72.1%	-	2.80	23.0pt	-	-	-
	64.8%	-	-15.02	3.00	37.8%	41.2%	-	2.37	56.8%	58.8%	-	2.67	27.0pt	-	-	-
	76.1%	-	-1.52	3.10	64.9%	70.6%	-	2.79	78.4%	76.5%	-	3.06	11.2pt	-	-	-
	88.7%	-	7.79	3.24	67.6%	70.6%	-	2.83	64.9%	76.5%	-	2.84	21.2pt	-	-	-
	76.1%	-	7.93	2.93	43.2%	64.7%	-	2.46	62.2%	76.5%	-	2.65	32.8pt	-	-	-
地域や社会に開かれた土壌	81.3%	-	18.36	3.14	64.9%	76.5%	-	2.83	81.1%	82.4%	-	3.14	16.5pt	-	-	-
	90.1%	-	14.36	3.27	78.4%	82.4%	-	2.97	91.9%	88.2%	-	3.32	11.8pt	-	-	-
	87.3%	-	20.00	3.14	59.5%	76.5%	-	2.71	64.9%	82.4%	-	2.81	27.9pt	-	-	-
	80.3%	-	22.31	3.19	64.9%	82.4%	-	2.86	78.4%	70.6%	-	3.14	15.4pt	-	-	-
	67.6%	-	16.77	2.96	56.8%	64.7%	-	2.77	89.2%	88.2%	-	3.28	10.8pt	-	-	-

58